

慢性胃加答兒(溜飲)

原因 急性胃加答兒の不治若くは再發、咀嚼不足の食物、飲酒及喫烟の過度飲食に係る胃の經久刺戟、肝、心、肺の病に關する胃の鬱血及胃潰瘍或ひは胃癌、貧血、萎黃病等なり

症狀 慢性胃加答兒に於ける初期の症狀は通例隱微にして潜伏すれども急性症より轉ずる者に在ては其症狀漸く緩解すれども往舊として去らず遂に本症に轉ずるものとす而して本症の經過は長短定まりなく或は月餘にして治することあれども通例緩慢にして病勢の進退常なく數年の久しきに亘ることあり

自覺的症候 患者は胃部に一種不快の感を起し食慾缺乏して吞酸、嘔噎し胸骨の下部或は心窩に鈍痛を覺え腹部は膨滿して通例便秘し往々食後に胃部の緊滿、壓重を覺え少時を経れば惡臭の腹氣を發す加之神經家に在ては往々頭痛、頭重、肩強、眩暈、心氣亢進、身肢倦怠、精神鬱憂して怠惰となり不眠或は嗜眠を起し、時としては比剎昆瑛兒を發することあり又惡心、嘔氣を催し時としては嘔吐する事あり就中酒客に於ては早朝多量の粘液を吐出す此もの

は亞兒加里性の反應を呈することあり、尿は弱酸性或は中性にして尿酸鹽、磷酸鹽を含み瓦紅色の沈澱を呈す、但本症に於ては自發性の胃痛を發すること稀なるを以て若し之を發するときは胃潰瘍の疑を以て探求すべし

他覺的症候 舌上の現症は不定にして或は舌の後部に黃白色の苔を被り或は厚苔を被り或は滑澤にして赤色に濕潤することあり、胃部を按ずるに其大彎に沿うて知覺過敏となり鈍痛或ひは疼痛を發す殊に食後に於て然り肥大性の症に於ては往々胃壁の肥厚するを觸知せらるゝことあり、胃液の分泌は通例胃の血行障礙に因て減少し却て粘液の分泌を増す是れ食慾缺損、吞酸、嘔噎等を起す所以なり又胃壁に病的變狀あるに因て其蠕動機減衰して益々消化不良を致し或は黃疸を起すことあり

療法 慢性胃加答兒も亦急性症に於けるが如く其原因に從て之を豫防し又既に本病を發する者に於ては其原因を探つて之を攻撃すべし而して本病の療法は之を食養的、藥物的、及器械的の三法に區別す蓋し本症は第一に患者の攝生如何に依り第二に治療法の良否に關して治不治と遲速とを異にするが故に其攝生上不適の件々は細大となく盡く之を嚴戒し併せて適當の治

療法を行ふべし

療法の行ふべし 食養的療法は本病治法中最も緊要にして薬物的療法の上在り即ち先づ直接の有害物殊に不消化物及び酸酵、酸敗し易き物を禁じ(例之脂肪性、香竇性及酸性食物、酒精、含水炭素物、過熱過冷のもの、甘味、鹹味の甚しきもの硬靱なる物等)食物は充分に咀嚼せしめ齒ある者は之を療し液類の多飲を戒め飲食時を一定せしむべし但し食養生法の適否に就ては人々其趣を異にするが故に須らく患者の稟性に應じて臨機の處置をなすべし蓋し通例胃病者に用ひ得べき飲食物は即ち脂肪少き獸肉、鳥肉魚肉の類にして可成生食若しくは半熟をよし又乳汁、卵、肉羹汁或は葛湯、米粥の如きも亦適量なるときは用ひて可なり(乙)薬物的療法の目的は胃の内容物を速かに腸に下送せしめ胃の運動及吸收機能を催進し釀酸過多の者には之を中和し粘液あるときは之を排除するに在り、胃腸病専門醫によるべし

胃病の豫防法

胃病の原因となる可きもの甚だ多く一々枚舉するに遑あらず從つて之が豫防法も種々ありと雖

も日常注意す可き事左の如し

- 一、食事は成る可く靜に精神を落ち付けて愉快に食し且食物は充分噛み碎きて嚥下す可し
- 二、食事は成る可く時間を定めて食し間食を廢す可し又食事中は紐帶等の緊縛を避く可し之によりて血液の循環を妨げ眩暈卒倒等を來す事あればなり
- 三、食物は冷熱甚だしきものを避け適度の溫度となして用ふ可し又食物と同時に汁、湯、茶等を多量に用ふる時は胃液の力を弱め消化を害するものなり
- 四、食後直ちに寝る時は胃の働きを弱め消化力を鈍くするものなれば食後二時間を経て適宜の運動をなす可し
- 五、暴飲暴食を禁ず可し
- 六、酒、煙草等は少量を用ふるは敢て害なしと雖も共に習慣となり易く終には濫用するに至り胃腸を損ふ屢々なれば慎むを宜しとす
- 七、便通の不正なるは胃腸の病を起し易きものなれば毎日一回ある様心懸く可し
- 八、胃の健康を保つには又屢々入浴して身體の強固を圖る事必要なり其時間は食前一時若しく

は食後二時なる可し食後直ちに湯に入る時は胃の消化を害するものなり

九、婦人月経時は胃の消化力衰ふものなれば特に注意して消化し易き滋養物を用ふ可し

一〇、小児期の胃病は滋養物の不良口内の疾病等より來るものにして發育を損ふこと甚だしく成長するも諸種の疾患に浸され易きものなれば特に注意する事肝要なり

一一、齶齒あるものは口内不潔となり且食物咀嚼不充分なるを以て胃を損ふものなれば初期に於て適當なる治療を加へざる可らず

一二、其他房事過度、手姪、劇務、徹夜の勉強等、神経力を過勞するものは胃の疾病を醸すものなれば避けざる可らず

胃 潰 瘍

原因 胃の内面に生ずる潰瘍にして心臟病胃酸過多等に發する事あり

症状 消化不良及疼痛の兆候ありて吐血す豫後は治愈するを常とすれども再發すること亦多し治愈の後痕痕を残し爲めに幽門狹窄を起し癌腫を生ずる事あり

胃 癌

療法 素人療法之緩にして往々其方法を誤る事あり直に醫師の手當を要す吐血の場合は只氷片を與へ決して固形物を與ふべからず

原因 胃癌は四十歳以上の人に多くして男女の別なし通例原發する者にして時として遺傳することあり、胃癌の誘因は胃潰瘍、慢性胃加答兒、酒精の妄用等なり

症状 胃癌は經過中通例固有の症状を現すものなれども時としては經過甚だ不明なることあり而して初期は殆ど慢性胃加答兒を呈し次て胃部疼痛し一種特異の嘔吐、胃出血便秘を起し又固有の悪液質に陥るものなり、胃部疼痛は心窩に在て其の性灼くが如く刺すが如く或は壓すが如し、通例食後に増劇して背部に放散することあり然れども亦往々疼痛微にして僅に胃部の壓重、膨滿を覺ゆるのみのことあり嘔吐は早晚發すれども小彎近部の癌には時として全く缺如することあり而して噴門部の癌にありては食後直に嘔吐を發し幽門部の癌に在ては食後一二時にして起ることあり其吐出物は往々咖啡沈渣の如き者と雜へ多くは遊離鹽酸を含むこ

となく時々吐出物中に癌細胞の存するを見ることあり

胃の出血は、通例癌腫中の小血管よりするものなれば、大出血を致す事甚だ稀なり血液は胃中に於て其内容物と混和し「ヘマチン」の分解に依て暗黒色を呈す故に吐出物は血液の多少に従て赤色或は黯褐色を呈す、便泌は嘔吐に續發するものにして噴門癌に在ては胃腸縮少し幽門癌には擴張するが故に共に食物の腸中に下らざるに因るなり但し末期に至り癌腫破潰するときは却て下痢を起すことあり又胃出血後の大便は黒色にして血液を混することあり

療法 胃癌には根治的の薬なし故に唯々對症療法に兼て食養法を行ひ或は時としては外科的療法を以て癌腫を除去することあり。

胃 擴 張

原因 室扶斯、肺炎等の大病に罹りたる身體の衰弱したる者、牛乳、ソップ、おも湯等を主なる食物とし極めて營養分のなき、分量の過大なる、水分の過多なる物を用ふるより次第に胃の擴張を起したる結果に多く其他神經過敏の人、胃液の少きを爲め消化不良にして食物の永く停

滯する爲め又胃中に瓦斯發生し甚だしく胃を膨らしたる時又肺病萎黃病等の全身衰弱者等は殊に多しとす、尙日本人は肉食に失する弊あり少しく口に叶ふ食物なれば其分量を制限せず只無暗に喰ひ散らすの惡癖を有し不知不識食過ぎる者甚だ多く尙肥満したさの觀念より多食するもの亦少からず

症状 胃擴張は經過或は緩漫にして初めは慢性胃加答兒の如く精神沈鬱、食機減損、暖氣、吞酸、嘔噎、食後腹部の重壓を覺え時々悪心を起し終に嘔吐す而して嘔吐は食後數時にして發し多量の不消化物を湧吐し且つ往々數日前の食物を混することあり且つ此嘔吐は常習となり吐後一時却て輕快を覺ゆ其他大便秘結し尿量減少して中性或は亞兒加里性となり尿中には磷酸鹽類増加し格魯兒化尿酸素は減少す又時としては頭痛、眩暈、嗜眠、痙攣等を發することあり身體は漸々衰弱羸瘦し終に下脚に浮腫を發するに至る

療法 胃の筋層が弛緩し其働きが鈍くなりて起る病にして過食家、酒客、不消化物の食用によりて發するものなり去れば食物の攝生に注意し消化し易き滋食物乳汁、鶏卵、細挫肉を與へ不消化物特に野菜、馬鈴薯、脂肪質等を禁じ胃の洗滌を行ひ下腹に腹帶をなして筋の收縮を

助け又時々下劑を與へて便通を調ふ可し其の他毎食後二時の後胃の按摩法を行ひ電氣を通ずるも効あり

神經性胃痛(癢)

原因 神經衰弱症、ヒステリー、手淫、ヒボコンデル、脊髄癆、胃潰瘍、胃癌、胃加答兒、貧血、萎黃病、痛風、間歇熱、女子生殖器病、酒、煙草、茶の過用。

症狀 本病の發作は殆ど疼痛を脱す發作前には頭重、欠伸、鬱憂、震顫、呑酸、流涎、惡心、嘔吐、胃部壓重等の前徴を呈し或は全く前徴なくして突然胃部に痙攣性の劇痛を發し灼くが如く絞るが如く刺すが如く裂くが如く重症に在ては其痛上は肩胛部に下は臍邊、下腹部に放散し患者殆ど堪へ難く顔面皴蹙して大苦惱の狀を現はし次で忽ち虚脱して手足冷却脈搏不整にして細微となり失神、痙攣等を起すことあり然れども多くは此の如く劇烈ならず或は治療を加ふるに依て發作漸々緩解し患者大に疲勞を覺え或は卒然屢氣、嘔吐、發汗、痙攣性尿通等を以て發作止むものなり而して發作の際には胃部多くは陥没し腹壁は緊張して板の如く之を

打診すれば、鼓音を發し強く按摩すれば却て疼痛緩解することあり故に患者自ら手を以て壓し或は器物を以て頻りに胃部を壓する者あり(胃壁に器質的變化あるときは往々按摩に依て疼痛増劇す)發作の數は種々にして二三日に一回なるあり或は一日に數回發するあり但し胃酸過多症に在ては發作は胃の空虚なるときに起り飲食するときは却て輕快すれども一般に於ては之に反するものなり、經過及び豫後共に一定ならず蓋し主として原因病の善惡及び長短に關係するなり

療法 嘔心頭痛等の前徴あり次で胸腹部に劇痛を覺え苦悶甚だしく輾轉反側し遂には精神を失ふことあり

食餌の攝生を守り茶酒等の如き飲料を避け澱粉質脂肪質の食物を禁ず可し若し疼痛發作して苦悶劇しき時は胃部に溫巴布を貼し手指を以て強く壓迫す可し其他溫石懷爐等を以て溫め又は芥子泥發泡膏を貼するも宜し尙疼痛治まらざる時は醫師の診察を乞ふ可し

急性腸加答兒(くだりはら)

原因 不良なる飲食物、暴食、中毒、寒冷に因て發し、急性胃加答兒と合併し急性腸加答兒を
 易し ます其他蛔蟲の刺戟、腹膜炎の波及、急性傳染病、皮膚の大火傷等にして小兒は本病に罹り

症狀 急性腸加答兒の症狀は其經症、部位及び廣狭に従て異れりとす而して患部廣大ならざる
 ときは通例熱候を呈せずと雖も炎症劇甚なるときは悪寒、發熱、食機缺損、頭痛、倦怠、口
 中乾燥、大渴、舌上厚苔等の症を發す下痢は必發の症狀にして初め腹内雷鳴し臍部に疼痛を
 覺え腹部を按壓すれば疼痛劇増す次で多量の軟便或は水便を下すこと一日四五回乃至十回に
 及ぶ但し大腸胃加答兒に在ては裡急後重ありて大便は黄色を帯び多量の粘液の凝塊を混する
 を見れども小腸加答兒に於ては便色帶黄或は帶綠にして粘液親密に混和するか或は食物
 の消せざる者を混じ所謂完穀下痢の狀を見ることあり殊に小兒に於ては大便秘色にして泡沫
 を雜ふることあり此の如く多量の大便秘を下すは粘液分泌機及び血管漏出作用の増加消化液の
 吸収不全に因るものなれども腸粘膜炎性刺戟に依て腸の蠕動機を興進せしむるも亦大に關
 係する所あり故に腸管上部の加答兒に在ては間々下痢を發せざることもあり是れ其下部殊に

大腸の蠕動機をして興進せしめざるに據るなり而して下痢持續する時は患者大に疲勞を覺
 え體中の液汁を失ふを以て皮色蒼白、眼窠陷沒、四肢厥冷し尿量減少して強酸性を呈し多量
 の尿酸鹽を沈澱す又本病は往々胃加答兒を合併して悪心、嘔吐等を發し又病十二指腸に波及
 するときは黄疸症を兼ねるとあり、本病新發のものは通例二日乃至四五日にして治癒に赴き
 敢て危険ならずと雖も亦往々慢性に轉じ易く重症殊に老人、小兒に在ては衰弱に陥ることあ
 り而して他病に續發するものは豫後概して吉ならず或は忽に斃るゝことあり

療法 豫防法として飲食物の攝生を守り暴飲暴食、未熟なる果物、腐敗に傾ける肉類、脂肪性
 食品、鰻、天ふら等を避け過冷、過熱のものを禁じ消化し易き食品を用ひ寢冷等なき様注意
 す可し

下痢劇しく身體冷え渡り益々衰弱するものは芥子を熱湯に混じて腰湯をなさしめ腹部はフラ
 ンネルにて細ひ温石若しくは温巴布(飯に鹽を混じ蒸したるもの)を貼し或は湯たんぼを入
 り可し斯くて身體温まりて氣力快復する後は口渴を覺ゆるを以てリモナーデ、氷片、葛湯、茶
 等を與へて肉羹汁、鶏卵、牛乳等を徐々に給す可し固形物は成る可く與へざる様にす酒類は

盲 腸 炎

良好な葡萄酒に限り少量を與ふるも可なり

原因 主として盲腸内の異物殊に糞石の刺戟に由る又た結核、潰瘍、感冒、近傍の炎症波乃等なり

症状 消化不良より便秘を起し悪寒及體温を昇騰せしめ脈搏増加を示し感覺を過敏ならしめ屢々痙痛様の疼痛ありて嘔吐を催すべし

療法 療法としては直に灌腸法を行ひて腸内に蓄積せる汚物を排泄し牛乳鶏卵其他消化し易き者を取り疼痛時には冷罨法を行ひ患者強壯なれば水蛭を貼し便秘を持続するときは更に下劑を投すべきものとす

便 秘

原因 飲食物粗食の不消化物、膽汁分泌減少、發汗泌乳排尿の過多、腸管筋膜の腫瘍、痙攣、

貧血、佝僂病子宮の妊娠的壓迫、脊髓勞、ヒステリー、腸管の狹窄或は閉塞等之なり磊々としたる硬結便の通利を見ざることを、一日半以上に至ることあり而して倦怠、違和、心悸亢進眩暈等を發し、遂に痔疾、吐糞症を發するに至る

療法 暫時性と常習性とに關せず、總て其原因を除き、飲食物を整調し、腹部の冷罨法を行ひ或は下腹部の按摩を施し、偏利設林灌腸を行ふべし

蛔 蟲

原因 此子蟲を混在せる不潔の飲食物、就中葉實野菜等に在り、余往年、青森の村落に於て、住民の腹痛を訴へ、診療を請ふもの、十中七八は彼の蛔蟲に因する疼痛なるを認め是に因て之を見れば不良の食物に基くは果して明かなり

症状 大人は、其症候著明ならざれども、小兒に在ては、惡心、嘔吐、腹部の壓感、頭痛、眩暈、便秘、若くは下痢、鼻腔癢痒の感、左右瞳孔の不同、最も確兆する所は蛔蟲或は卵を糞便中に發見するにあり

療法 攝綿支那、珊瑚尼涅を用ふ

縲 蟲(眞田蟲)

原因 主として食物より來たる者にして、豚肉の有鈎縲蟲、牛肉の無鈎縲蟲、鱒、鮭の擴節裂頭縲蟲等の本病の囊蟲を含有せる者を生食或は半熟を食すと該蟲の腸内に寄生するに由る
症状 稀れには全く病徴を呈せざることあり然れども通常多くは、食欲缺損、悪心、嘔吐、痲痛、爾他は鼻痒、流涎、眼の瞳孔散大、心悸亢進、便秘或は下痢を起し加之耳鳴することあり

療法 療法を試むる前夜は、下劑、及び茶、肉羹汁を與へ、翌朝少量の濃煎したる咖啡若くは茶を飲ましめ、後ち施與すべき藥劑を與へ、二時間を経て、蓖麻子油を與ふべし、然れども幼兒、或は衰弱の小兒は、驅蟲法を行ふべからず、成年の小兒にして、體質佳良に下痢の習弊なき者には、敢て妨げなし、是に於て其前夜稀薄の肉羹汁を與へ、翌朝服藥後も亦た之を用ふべし

吐血又胃出血

原因 主に胃病に基因する者にして胃癌、胃潰瘍、月經の閉止、心肺肝等の疾病に係る胃粘膜の鬱血、又は腐蝕藥の嚥下等之なり

症状 疼痛と胃部の壓重、嘔吐及び吐血にして、其色澤は、黒くして恰も釜兒狀の如し、其中に食物の残渣を含有するを常とす、便中血液を混すれば、診断の確實なるを知る而して此の血液は酸性を呈すべし

療法 善く原病に注意し、靜安にして褥中に平臥せしめ、動搖を嚴禁し、初め二十四時間は凡て飲食を禁じ、時刻を経て初めて牛乳を煮沸したる冷乳を、食匙にて少量宛與へ、爾後唯だ流動物を投じ氷水、氷片を飲ましめ胃部に氷器法を行ひ失神には顔面に冷水を噴注し口より榮養物を取ることは能はざる場合は滋養灌腸を行ふ即ち細挫牛肉四〇〇、〇肉臍一〇〇、〇に溫水を加へ、研擦して粥狀となりたる者を稱用す

黃疸

原因 本病は肝臓病の徴候となり發する者なれども、唯だ是れ一部の病兆のみ眞性のものは胃及び十二指腸加答兒の波及に因する輸膽管の加答兒性粘膜炎腫脹、或は閉塞或は壓迫等より發する者即ち之なり

彼れの特徴は眼の結膜、及び皮膚粘膜炎の黃色發現にして頭痛、倦怠、脈搏は遅徐にして五十至其の他精神鬱憂、動作を嫌ひ、食欲欠損となり、舌は黄色の苔を蒙り皮膚痒癢を覺え、肝臓及び膽囊の腫大と壓痛を起し、尿水は其色暗褐色となり、振盪すれば黄色の泡沫を生ずるに至る、大便は白色となり臭氣最も甚し

療法 先づ原因療法を要するが爲めに胃及び十二指腸加答兒に對する治法を加へ安臥、攝生を命じ、肝部の疼痛には、温罨法を施すべし、不消化性、及び脂肪性の食物を禁じ、或は下劑利尿劑を與へ皮膚に瘙癢の感ある者には、温浴を行ふ

神經性消化不良

一種の神經性に來れる消化不良にして其原因はヒステリー、ヒポコンデリー等の患者に多く主症として頑固の嘔吐、嘔氣、胃部膨滿、壓重の感等にして其の他消化不良症に同じき症候を呈す療法としては、原因療法を専らとし、併せて對症療法を行ふべし素より専門醫の治療を受くべし

肝臓膿瘍

原因 外傷に創及銃創等に因り或は他部の膿瘍より轉移性となりて來る

症候 右季肋部より肩胛部に放散性疼痛を發し肝臓は著しく腫大し間歇性の熱を發し呼吸困難を來し或は黄膽を發して尿は褐色 或は「サフラン」色様となり大便灰白色となり衰弱漸次に加はり膿瘍は時として腹腔に破開し或は外部に破開することあり

療法 消炎法を施し滋養強壯劑を投じ熱あるものには解熱劑を與へ化膿の徴あるものは切開し

て膿漏す

肝臓硬變症

原因 本症は中年男子に多く浸さるゝものにして酒類の暴飲、梅毒、麻刺里亞、結核、肝臓充血、痛風、密尿病等より來る

症状 初期には暖氣、嘔吐、胃部の壓重便秘或は下痢肝臓腫大肝部壓痛其他肝臓萎縮、腹水、

軽度の黄疸脾臟腫張尿減少して暗色となる

療法 最も必要なるは原因療法にして酒客には漸々酒類を禁斷せしめ梅毒あらば驅微療法を行ひ能く／＼攝生を命すべし

腹 膜 炎

原因 傳染性諸病腎臟病腐敗性病、失荷兒陪偈、ヘルニヤ腸箱頓、便秘結核、其他産褥熱の傳染子宮炎の波及流行性寒胃外傷寒胃隣接器の炎症の波及之なり

療法 生命甚だ危険なり而して仰臥靜息を命じ氷罌法を小腹部に行ひ直ちに内科専門醫に治療を受くべし

腹 水 腸 満

原因 主に肝臓疾患即ち肝臓梅毒肝臓硬變症、門脈及び下行大靜脈の壓迫若くは血塞に基因する門脈血行障害の他心臟、肺臟の疾患に因て來たる血行障碍及び惡液質等なり

症状 一見吐腹緊張、光澤に由て本症なるを知るを得べし其外靜脈の怒張、漿液滯溜部の波動及び體位の變化に隨從する吐腹部の濁音心臟肺の上 壓尿量の減少呼吸困難等を呈す

療法 肺心肝臟より原因する者は其療法を行ひ其他發汗劑利尿劑或は下劑を投ずる場合あり、牛乳及び適度の強壯食物を給す

燒 蟲

原因 直腸即ち肛門内又は腔内に白色短小の圓形蟲の寄生するによる
 症状 肛門又は腔内の瘙痒便意頻數搔把潰瘍等なり
 療法 局部の清潔法を専らとし冷水灌腸を屢々なし醫治を乞ふべし

十二指腸蟲病

原因 本蟲は雌雄の別あり甲は十乃至十八密迷 乙は六乃至十密迷の大きにして主に十二指腸に棲息す其症状は漸進する貧血諸病なり曾て「クリーゼンクル」氏は之を埃及萎黃病と唱へり又た下痢痲痛疼痛心悸等を發す大便検査を行ふときは多數の卵子を検出すべし
 療法 諸般の驅蟲劑を以て驅除すべきも時々頗る頑固なる者あり

膽 石

原因 膽石發生の理は未だ全く明らかならざるも膽汁濃稠となる時は之を生じ易く膽管粘膜炎患に由りて其分泌する粘液或は、肉皮碎片等に膽汁成分沈着して生ずると云ふ本病は四十歳以上に多し

症候 主徴は固有膽石痲痛なり其發作前多少前徵あり即ち惡心戰慄等を來し尋で右季肋より放線狀に劇甚の疼痛を發し爲めに戰慄搖蕩する者あり時として發熱し脈搏は遲速一定ならず此の如きもの數時長きも一二日にして歇む
 療法 拘攣痛を發作する時は腹部の溫罨法一二時間の溫浴を行ひ速かに醫治を受くべし

痔 瘻

原因 肛門周囲の創傷、膿瘍、結核、梅毒等より起る
 症状 肛門部の周囲の皮膚に瘻孔を呈し膿汁を漏出す其瘻孔の形態により各分類せらる即ち瘻孔の肛門周邊皮膚と直腸内と交通したる時は全痔瘻と稱し或は直腸に達せざる時は不全外痔瘻と呼び及た直腸内より瘻管の肛門の外皮に穿通せざる時は不全内痔瘻と名づく其原因の

異なるに從ひて経過の長短ありと雖も先づ結核性によるものは経過緩慢にして豫後も亦た不良なりと知るべし

療法 内服としては専ら強壯剤を用ひ外用塗布薬としては收斂防腐剤を施せども最も適當なるは早期手術療法を最良となす

直 腸 脱

原因 又屢々遭遇する所の疾患にして、肛門外に脱出する直腸粘膜の皺襞或は直腸の全層より成れる圓形又は長形の腫瘤にして世俗に脱肛即ち之なり

療法 先づ攝生を嚴守し、力めて消化し易き食物を取り、酒類、及び辛酸物を慎み、勞働業を成さざる様にし、下痢、或ひは硬結便を治療し、便通を調整せしむるを以て最も必要なりとす

腹 痛

原因 醗酵性不消化性食物、腸加答兒、ヒステリー、男女生殖器病等より起る

症状 腹部殊に下腹部膨滿緊張壓痛、暖氣腹鳴疼痛等なり

療法 原因を確かめ下剤を用ひ或は灌腸を施し腹部に氈布湯婆、熱布、壓搾按摩をなし最後に鎮痛劑を與ふ、而して凡て飲食物は攝生を嚴にするは勿論なり

腸 結 核

原因 本症大人に在ては多く肺結核等の分症となり來るを常とす小兒に在ては結核性獸乳より

原因として腸腸間膜腺の結核を原發する者多きが如し結核菌の好で沈着する部位主として回盲瓣近傍とし之と同時に腸間膜腺腹膜に亦之を見る

症候 頑固の下痢殊に夜間に來り又下腹の疼痛あり腸間膜腺を犯す者は皮下に之を觸知すべし小兒に在ては急に腹膜炎を發し斃るゝあるも多くは慢性腸加答兒症あり頑固の下痢羸瘦不定發熱肚腹膨大遂に腹水全身水腫を發す所謂腸間膜癆なり

療法 豫防法を主とし牛乳を選び煮沸殺菌したるを用ふるを要す已發症は體力保養と腸加答兒

の治療なり肝油は内用及び腹部に塗擦して可なり時としては轉地療養鑛泉療法著効あり

ヘルニヤ

原因 本症は先天的發育不全に基き他は後天的にして重物扛擧劇烈なる咳嗽號叫努責等にして婦人は男子より少なく故に殆んど四分一なりとす

症状 歩行起立咳嗽等に際して腹腔の一定部より腫物の如きを現出すべし故にヘルニヤなる者は其現出部位に由て又名稱を異にせざるを得ず即ち陰囊よりする者は陰囊ヘルニヤと云ふ如し然るに之等の種類は左に記す如し

腹壁ヘルニヤ 臍ヘルニヤ 内鼠蹊ヘルニヤ 外鼠蹊ヘルニヤ 股ヘルニヤ 座骨ヘルニヤ 會陰ヘルニヤ 會囊ヘルニヤ 閉鎖ヘルニヤ 等なりとす

療法 ヘルニヤを完全に還納し還納の後ちヘルニヤ帯を用ふ可し而して還納し能はざる者は最後に外科醫により根治手術を施すべし

直 腸 狹 窄

原因 多くは腸壁の肥厚及び直腸に生ずる癌腫等許多なり其肥厚するや梅毒性潰瘍に由て來るもの多し或は近傍臓器の腫瘍に由て壓迫を被り狹窄を起すことあり

症候 便通障害は本病の主徴にして排便扁平帶狀となり狹窄上部は擴張して蓄便し加齢兒を發し下痢及便秘を交發す而して高度の狹窄には消化障害を起し糞尿停滯の爲め吐糞性を發す若し化膿及瘻管を併發する時は時として敗血症及び腹膜炎を起して死することあり

療法 原因に遡り治法を企つべし

直 腸 癌

原因 胃癌に同じ

症状 年齢四十歳後の男女に發し直腸内に腫瘍を生じ胃癌に同じく全身營養不良となり衰弱に陥りて死す

療法 早期根治手術の外なきも多くは豫後不良なり

肛門裂傷(さげち)

原因 座業者殊に便秘家に多く婦人は月経異常及び妊娠時に發す而して小兒に於ては硬便を排泄する際之を起すとあり

症候 皮膚と粘膜の接觸部に於て皸裂の間に破裂様小潰瘍を生ずるものにして出血し易く感覺頗る過敏にして便痛の際には劇痛を發し痙攣性肛門狹窄を併發す而して其疼痛は生殖器或は大腸等に波及することあり

療法 裂傷部には收斂藥を與へ其他醫治によるべし

痔 核(いぼち)

原因 俗間にて痔と稱するものは醫者の方では種々に區別するものにして肛門部の血管が膨隆して疣の如くなれるものを痔核と稱へ肛門の周圍に瘻孔を生じ之より絶えず膿汁を漏らすも

のを痔瘻と云ひ又肛門外へ直腸の下降するものを脱肛と云ふ總て之等の病は其の起る原因は略ぼ同一なるものにして大便の秘結し易き人に最も多く其他子宮卵巢の腫物妊娠子宮等の爲めに痔の靜脈が壓迫せられて腫れ來る事あり、又肺病、心臟病の爲めに血行衰へて起る事あり又野菜類の如き不消化物を多食する人は肉食する人よりも一般に痔疾を起す事多し蓋し肉類は消化吸収し易きも野菜類は不良にして糟粕多く大便多量となり腸に瘀衝を起し易きを以てなり

症狀 痔疾の主たる症候は肛門の内外に痔結節を生じ時々破綻して出血し或は發作性の劇痛を發し或は常に粘液の漏洩を致すにあり、痔結節の肛門内にあるものは指頭を以て觸知すべく又肛門鏡に依て視診することを得べし而して輕症に在ては唯々肛門に瘙痒、灼熱、緊滿、努責の感ありて便通に方て肛門括約筋の痙攣を起し疼痛を發するに過すと雖も重症に在ては其痛甚しく或は延て腰、股、膀胱等に放散し尿意頻數、尿通困難等を起し食氣減損、微熱を發す此時に方ては結節暗赤色となり、腫脹して硬く之を指壓すれば疼痛忍び難く便通非常に困難となりて往々出血し(痔出血)或は裡急後重ありて粘液便を下すことあり(粘液痔)是れ直

腸の慢性加答兒に因る所なり又結節化腫すれば潰瘍或は痔瘻を作り或は肛門裂創となることあり痔結節の大なるに依り便通の際肛門外に壓出せられ括約筋の痙攣に依り箝搾するに因て生ず劇痛灼くが如く又刺すが如くにして結節は紫黑色となりて緊腫し終に壞疽に陥つて血塞を生じ或は血液中毒の症を發す然れども速かに此の結節を肛内に還納するときは疼痛乍ち輕減して上文の症狀を發するに至らず血行流利して結節漸く縮少す、此の如き發作反覆するか、或は炎症持續するときは組織の弛緩を來して結節全く縮少せずして無痛性の皮膚皺裂となり長く肛門外に垂下することあり、痔出血の充血、擴張せる粘膜血管の破裂に因るものは少量なれども痔結節内に在る擴張靜脈の破綻に因る者は大量なり又出血少なるも反覆するときは爲めに貧血症を招くことあり然れども常習の痔血一時閉止するときは却て充血症(頭痛、眩暈、不眠、胸内苦悶等)を發することあり之を痔疾性苦悶と云ふ故に常習痔出血ある者は適度の出血なるときは痔血症を散じ却て一時輕快を致すの利あり經過は甚だ緩慢にして數年に亘ることありと雖ども生命上敢て危険ならず

療法 原因に注意して適宜の法を施すべし即ち攝生法として多血、強壯の者には消化し易き植物性の食物を與へ營養不給の者には消化し易き滋養の品を選り酒精、芥子、胡椒等の如き

物性の食物を與へ營養不給の者には消化し易き滋養の品を選り酒精、芥子、胡椒等の如き苦辛き物を禁じ過度の運動、房事等を戒め便通後は毎回肛門を清洗せしむべし治法の主眼は便通を整ふるに在り就中便秘者に於て然り此の目的には専ら緩和の下劑を用ひ或は冷水、微温湯、虞利設林等の灌腸法を行ふべし、痔疾發作の甚しきときは冷水坐浴或は温浴を命じ炎症甚だしきものには水蛭を放ち後水囊を貼し或は鉛糖水の罨法を施すべし、痔出血大量なるか或は反覆止まざるときは直腸に綿球「タンボン」を挿入すべし、内痔結節の脱出する者は上圍後毎回之を復納すべし若し箝頓して納まり難き者に於ては膝肘位置に於て油を塗り徐々に還納せしむべし然るも尙ほ復納し難きか或は頑固にして再三反覆する者は専門醫により手術的療法にて烙白金若くは電氣を用ひて焼灼すべし

第貳編 呼吸器病

寒 胃

原因 本疾病は動もすれば此れに罹る者甚しきは勿論、數多の病患の媒介を爲すものなれば初期に於て可及的其療法を講せざる可らず

病兆 寒戦兼ぬるに頭痛ありて咳嗽し、鼻涕の流泄と咯痰あり軽度なる音聲の嘶嘎、及び食思減損、稍々身體の倦怠等なり

療法 注意して身體を温保し、外氣の冷寒に觸れざる様にし臨臥には發汗劑を頓服せしめ咳嗽あるものには胸部に芥子泥を貼し其他合併症あらば宜しく適當なる醫療を行ふべし

喉頭加答兒

耳鼻咽喉の部を見よ

急性喉頭加答兒

原因 春秋の候氣温の變換甚しき時に多く其原因は多くは寒胃にして體質虛弱の者は罹り易く殊に小兒に多し

症狀 病勢は輕重種々なれども通例喉頭に粗厲灼熱を覺えて咳嗽を頻發し初めは無色透明の粘痰に泡沫を雜へたるものを咯出すれども後には黃白粘稠にして粘液膿性の痰を出し時に血點を交ふることあり然して聲音も嘶嘎して餘音を失ふに至る

輕症には熱候頭痛等なきも重症にありては虛弱家殊に小兒に往々微熱、全身倦怠、頭痛、食慾不振等の症を發す大人にありては危險症なきも小兒は時に危症を招くことあり

本病の經過は通例五六日なれども適法を施さざれば慢性症に轉する者あり

療法 豫防法としては感冒を防ぎ喫煙飲酒を禁じ腺病質の者にありては常に強壯劑を服用し海水浴を行ひ既に本病を發したる時は外出談話を戒め喫煙飲酒を禁じ先づ發汗法を試み頸圍には温巻法を施すべし、然して後には適當なる良藥を選び醫治を乞ふべし

慢性喉頭加答兒

原因 急性より轉すること多く又梅毒性及腺病性のものに罹り易し即ち喉頭を過勞するもの
 不潔、塵埃多き空気を呼吸するもの、過度の喫煙過量の飲酒、刺戟瓦斯の吸入、麻疹、百日咳、流行性感胃等の際に發す

症状 概ね急性症に同じく咳嗽、嘶嘎、咯痰及び喉頭、乾燥、粗厲の感覺を以て主症となす
 本病は生命に危険なきも結核症の前兆となりて來るものは豫後は不良なるを常とす

療法 全身療法及び局所療法に區別す局所療法としては發音談話を禁じ喫煙、飲酒、寒風を禁じ溫暖の地に轉居すべし其他頸部に濕溫療法を施すを良とす全身療法は藥劑を試むべし

氣管支擴張症

原因 氣管支加答兒、慢性肺炎、肋膜炎、老人咳等より來る

症状 病勢は緩慢にして無熱にして加答兒性症を呈し、早朝起床時には咯痰多量にして甘味

喘 息

ある惡臭を帶ぶ患者は多く患側を下方にして臥するを例とす、其他皮膚の蒼白汗腫を呈するものなり

療法 對症療法の外醫の治療を受くべし

原因 迷走神經の刺戟に關する發作性の氣管支筋及氣胞の痙攣或は橫隔膜痙攣なり鼻茸、扁桃腺炎、氣管支加答兒、胃加答兒、子宮後屈、原因上關係す、心臟(心臟性喘息)腎臟病(尿毒症素喘息)撤酸服用後(中毒性喘息)は共に呼吸困難を發するも本症に屬せず

症状 喘息は通例突然發作する者なれども亦往々之に先ち多少の前驅症(精神興奮、發揚して頭痛、眩暈、或は精神鬱憂、嗜眠、欠伸、鼻塞、消化障礙等)を發することあり而して發作は夜間睡眠中忽然として起ること多し即ち胸内の苦悶、呼吸困難を以て醒覺し初は唯々呼吸困難の狀を呈するのみなれども漸く高度に進むに従つて呼吸は一種固有の延長をなして困難となり室内空氣の不足なるが如きを覺えて窓戸を開放せしめ呼吸共に喘鳴を發し或は笛聲を

發することあり心悸亢進して脈搏頻數且つ小なり往々不整となり顔色蒼白、四肢厥冷して冷汗を流す

發作の終末に近くときは呼吸の喘鳴鈍く且つ低くなりて困難の狀漸く緩解し咳嗽頻發して黄色の粘痰少許を咯出す、又發作の時間は甚だ長短あり又發作は數回反覆するものなれども適當の治法を施すときは頓坐し得るものなり、但し本病持久するときは動もすれば肺氣腫を續發し易し

療法 豫防法としては高燥にして空氣清潔なる土地に居住し精神を安靜にし温度の急變刺激性食物、香竈性飲料風塵等を避け飲酒、喫煙を禁じ食餌には淡泊なる滋養物を選択すべし發作時には衣帶を除きて胸部を緩め清凉の室内に移し皮膚を摩擦し胸部脾胃等に芥子泥を貼り熱脚浴をなし氷片を嚥下せしめ珈琲の濃き煎汁等と與ふる時は最も効あるものなり其他喘息煙草(藥舖にあり)印度大麻と稱する藥品を入れたる紙卷煙草にして之を一本吸ふ時は大抵の喘息は輕快を覺ゆるものなり又喘息に著しく効あるものは氣候療法なり去れば發作頻々なるものは宜しく海濱若しくは山間の空氣新鮮にして溫暖なる土地に轉地し兼ねて水治法をなし身體の強固を心掛く可し

慢性氣管支加答兒

原因 急性氣管支加答兒の不治、肺氣腫、肋膜炎氣管支粘液刺戟、腺病性武雷篤氏、若しくは佝僂病性惡液質或ひは慢性肺炎結核の炎性刺戟波及等より起る。

症狀 慢性氣管支加答兒は熱候なく常に咳嗽を發して粘痰を咯出し往々胸内に灼痛を發し呼吸常に不利する等を以て其主症とす(甲)乾性加答兒とは頻々乾咳を發すれども略痰甚だ困難なる者を云ふ(乙)漿液性氣管支漏とは泡沫を交ふる多量の漿液粘性の痰汁を出す者を云ふ、蓋し此症は甚だ稀なり(丙)氣管支膿漏とは黄色、濃厚なる粘液膿狀の痰汁を咯出すこと多量なるものを云ふ

療法 慢性氣管支加答兒には第一に原因を退くること頗る緊要にして之を實行し得ると否とは復た本病の治不治に關す故に身體虛弱の者には主として強壯法を施し酒類、煙草の如き害物を禁じ職工及び高聲を要する業を執る者の如きは轉業せしめ氣候寒冷なるときは空氣清潔な

る温度の地に移住せしめ、海岸の湿润空氣は乾性症に適し山村の乾燥空氣は濕性症に適す
可及的感冒を防ぎ常に肺臟傳血を起す所の心、肺、肝、腎、等の疾患及び微毒等ある者には
適良の治法を施して之を驅除すべし

呼吸困難(いきざれ)

原因 腦疾患ヒステリー、酸素欠乏、血液病、呼吸器病即ち喘息、肺氣管喉頭の疾病及び心臟
病より起る

症状 呼吸困難に伴ふ笛聲音を發し呼吸數増加す時に減少することあり
療法 安静を主とし其原因によりて對症療法を圖るべし

肺 氣 腫

原因 肺氣腫は肺固有の彈力を失ふなり勞力者に多く慢性氣管支加答兒と同發す癆瘵咳氣管支
喘息も亦た本病を誘發す

胸廓 形狀桶狀をなし肺下界は常位より低下し心濁音界肺に覆はるゝが爲め狭少し肺氣活量
及び呼吸氣壓共に減少す
療法 粘液氣道に充塞するに由て呼吸困難を來す者には吐劑を用ひ又た腸管に誘導す氣腫に由
て來る慢性氣管支加答兒及び頻發する喘息様の發作は各條記載の方に由て處置す

肺炎(格魯布性肺炎)

原因 本症は彼の「フレンケル」氏の發見せる肺炎重球菌と稱する微菌に因する傳染病にして寒
胃及び外傷等は誘因となることあり時候は十二月より五月に亘りて多く、而して酒客は本症
に罹り易しと言ふ

症状 寒戰は俄然に起り次で稽留性高熱を發し六乃至七日を経て分利す、患部疼痛を覺え、聲
音は振盪増加す咳嗽甚しく、呼吸促進狀となり、咯痰に血液を混す
療法 安静臥床を命じ、室内の温度平同に保持すべし飲食物の攝生に注意し初期は患部に水蛭
又は水囊を貼し高熱には頭部、胸部に氷罌法を施し、呼吸促進には胸部芥子泥も亦効あり飲

咯 血

原因 本病は主に肺病より發する者にして肺結核、肺壞疽、肺腫瘍、肺「チストマ」肺炎及び急性氣管支加答兒心臟内に起る肺の鬱血等之が原因となる

眞正の咯血に在ては初め咳嗽を起し次で泡沫を混する鮮紅色の血液を咯出す二三日を経て體温屢々亢進し、胸痛を發する者なり

療法 極めて肝要なるは身體及び精神を安寧に保持すべし胸部水壅法を行ひ氷片を給し談話と温暖なる食物を嚴禁し適當なる攝生を命じ即ち情慾及び興奮を戒め新鮮なる空氣中にて滋養に富める飲食物を與ふべし

肋 膜 炎

原因 本症の原因は外傷寒胃、急性腎炎、肺炎、肺結核、心臟病、腹膜炎等之れなり

症状 乾性肋膜炎に在ては呼吸時に胸部の刺痛、及び摩擦音を呈す滲出性肋膜炎は悪寒を以て始り中等度の弛張熱を發す而して患部は深吸息咳嗽等に劇痛あり食慾不進と脈搏は頻數となり聽診上乾性は摩擦音滲出性は擴張聲音振盪減弱或は消失すべし其他打診上濁音を呈するなり

療法 熱候ある者には消炎法として酸性飲料を給し患側には水壅法を施し劇痛には水蛭を貼すべし其他發泡膏を貼し沃度丁幾を塗布すべし可及的早期醫療を受くるは肝要にして若し其の適法を誤る時は恐るべき貼後病を起すものなり

肺 結 核

原因 肺結核特種の原因は一千八百八十二年コップ氏初めて發見したる結核桿菌なり而して原發性ものは結核桿菌を先づ肺中に寄生するに因り續發性のもは先づ他部の臟器に結核病

を起し次で肺臓に結核菌の轉移するを以て更に此に同症を發するなり

(甲)原發性の者に在て結核桿菌を傳播する者は(第一)痰汁なり此物乾涸して粉碎し塵埃状となり飛揚して空氣に混じりて(二)人の吸氣と共に肺中に竄入す(三)表皮剝脱潰瘍創傷等あれば能く此處より身體中に入る(三)飲食物中に混じて腸管に入て棲息し次で肺に轉入することあり(四)患者と居を同じて親交するに依て不知不識感染するもあり(第二)飲食物中に(一)痰汁の一分混するに因る(二)結核患者と食器を共用するに因る(三)結核に罹れる病牛の乳汁を飲用するに因る(四)結核病牛の肉を食ふに因る

(乙)發續性の者は腸管腹膜泌尿生殖器粘膜炎淋巴腺骨關節等の結核病竈より血液淋巴等の媒介に因て結核菌轉移するに因る

(丙)素因(第一)體質(一)腺病質(結核質)の者に多く發す(二)遺傳に因て肺結核を發す蓋し古人は直接に結核菌を父母の精液及卵子に依て其兒に傳ふる者と做し或は結核菌を遺傳するに非ず結核に罹り易き薄弱の體質の遺傳するなりと蓋しコッフ氏は腺病患者の淋巴腺中殊に巨大細胞中に結核菌の存するを發見せり故に腺病は一種特異の結核性體質病なりと看做すべし

しと云へり(三)先天性の體質薄弱なる者即ち父母の老年重病衰弱近親相婚酒客等の兒子、(四)後天性の體質薄弱を致す者即ち營養の不給不潔の空氣身神過勞房事過度手淫等總て衛生上の不適及び重病者等の如し(第二)年齢概ね十五歳乃至三十五歳を以て最も多く本病を發するの時期とす但し四十歳以上に至れば通例之に罹ること少く又其經過も緩漫なり(第三)男女邦國の異なるに従つて差ありと雖ども概ね男女に於ては敢て大差は無きものとす(第四)土地(一)通例海面上五百迷以上の高地に於ては本病甚だ稀なりと云ふ(二)人民群居の都府卑濕狹隘の處に多し

本病は呼吸器に疾患あるときは細菌播殖の良用となり以て好機に乗じて感染し易し就中氣管支加答兒及び加答兒性肺炎を以て其冠たるものとす

症候 肺結核の症候を述ぶるに讀者の記憶に便ならんが爲に別に三期となす但し理學的診斷上の症候を除くの外は固より複雑にして判然區別し能はざる者多し

(甲)第一期肺勞初期の徵候 肺結核は一の傳染病なれども通例經過緩慢にして自覺及び他覺の症候を現はすに至る迄の潜伏期は甚だ長し動物試験に於ては結核菌接種後四五週日にして

全身結核を發すれども人身に在ては尙ほ未だ之を詳にせず

(乙) 潜伏期中の症狀(潜伏性肺癆)となす可き者左の如し即ち加答兒性或は纖維素性の肺炎等に次で本病を續發する者の如きは尙ほ炎症の徴あるを見るべしと雖も初期より直ちに結核症漸發する者に在ては唯々營養障礙の諸症を呈はすを以て本病の潜伏期となす可きのみ患者の面色一種汚穢の蒼白となり或は土色を帶び四肢軟弱にして倦怠を覺え僅に身神を勞するも容易に發汗心悸亢進及び顔部潮紅して疲勞し易く婦人に在ては月經障礙を起し治法を施すも効なく加之鐵劑の内服に依て却て上衝し頭痛衄血消化不良等を致して増悪するものなり又勉めて滋養物を給するも却て羸瘦し胸廓細長扁平にして心窩の上部及び鎖骨上窩陷沒し或は食機不能、神思鬱閉し或は神經鋭敏となり或は數々衄血の常習ある者にして本病遺傳素因を有するか若くは幼時腺病に罹りしことある者は尙ほ未だ理學的症狀を發顯するに至らざるも通例略勞の疑を免れず

(丙) 肺癆初發の症候 (一) 本病は前記潜伏期中の肺癆症狀を呈するか或は此の如き前徴を呈することなく身體強壯の者に在ても突然多量の咯血を起し喉頭に搔痒を覺え咳嗽發熱胸内

窘迫等を發することあり(二) 先づ喉頭加答兒の症狀を以て起り音聲變調嘶啞等の症狀を發し頑固なる短節の乾咳を發し或は甚だ微量の粘痰を咯出し或は痰中に少許の血液を混することあり、又咳嗽は一時痙攣性となりて恰も百日咳の如き狀をなすことあり而して通例夏期は輕快すれども冬期は増劇して頗る苦惱を致す者あり(三) 初め感冒に罹りて氣管支加答兒を發し胸部に疼痛を覺え呼吸短促し不整の熱候を現はし荏苒として身體漸く羸瘦し遂に肺尖加答兒となりて盜汗を發する者あり(四) 結核の素因ある者或は衰弱家に在ては肺の炎症に次で往々本病を起すことあり、殊に肺尖部を侵す者に於て最も然り又胸膜炎或は骨關節皮膚副睪丸等の結核性疾患及び痔瘻の患者に於ては隱然本病の既に潜伏して存するを見ることあり

(丁) 第二期の症狀 第一期の症狀悉く荏苒として増進す而して痰は通例黃色或は綠色を呈し初期は粘稠にして其量少なく所謂生痰の狀をなせども漸く増多し粘液濃狀をなして吸出し易く之を水中に投すれば器底に沈降す或は之に血液を混することあり殊に緊要なるは結核菌及び肺の彈力纖維の存在なり食慾非常増進するも營養機能は却て衰ふるを以て身體甚しく羸瘦し皮膚枯燥して落屑し顔面憔悴すれども精神却て敏捷となる熱候は初期に於ては概ね輕

微にして通例日晡潮熱す又時々熱症發作狀をなして起り以て結核の新に沈着するを示し後には所謂勞擦熱となる此熱は間歇熱様にて通例毎日午後に至れば惡寒を以て發熱し往々三十九度乃至四十度に至り翌朝に至るまで持續し大に發汗して襦衣を濕すに至る朝は體温下降して平温より低きこと屢之あり然れども末期に至ては殆ど高度に稽留して微々たる弛張を現はすのみ又所謂奔馬勞即ち急性肺勞に在ては初期より體温四十度或は其以上に稽留し其狀恰も急性傳染病の如く一二ヶ月にして乍ら斃るゝものなり但し此の如き劇症は甚だ稀なり脈搏は初期より多くして微々たる刺戟あるも忽ち増多す蓋し本病に在ては中等症なるも既に百乃至百二十至を數へ理學的症狀の度に比照すれば甚だ頻數なるを常とす呼吸の數も亦甚だしく増加して短促すれども患者は敢て呼吸困難を覺えざることあり但し勞働するときは必ず呼吸促進を覺ゆ此の如きは蓋し肺の呼吸面減少すること緩徐なるに依つて患者之れに慣るゝが爲めなり

(戊)第三期即ち末期の徵候 空洞より出る痰は甚だ多量にして往々毎日數百瓦を出すとあり然れども溶崩下痢を發するに至れば其量減少す而して痰は凝結して球狀の一塊となり粘縷を

引て唾壺の水中に沈む又或は此痰頗る惡臭を放つことあり此時若し空洞内循行する血管未だ閉塞せずして破裂することあるときは大咯血を起す又頑固の不眠症を發することあり患者は終に非常に衰弱し羸瘦骨立し足踝の淨腫及び腹水を發し呼吸頻數にして淺く聲音嘶啞て口内粘膜には鷺口瘡を生じ頑固の下痢及び稽留熱に依て衰弱益々加はり終に生力沈衰に陥り或は聲門水腫を以て斃るゝものとす肺結核の經過は通例慢性にして數年に亘るもの多しと雖ども時としては迅速の經過をなし僅々數閱月にして既に斃るゝ者なしとせず肺結核の豫後は一般に凶なりと雖ども亦初期に在て間々癰痕を結成し以て病勢の停止する者を見ることあり蓋し、此の如き最幸の轉歸は常に病竈最小なるときにのみ見る所なり而して少壯なる者遺傳を有する者炎竈のみに蔓延する者他病を併發する者高度の稽留熱を起す者多量の咯血を致す者衛生上不良の諸件を避くること能はざる者等に在ては豫後必らず凶にして經過も亦迅速なり

療法 肺勞は嚴重の豫防法を施して之れを未發に防がざる可からず何となれば本病に於ては未だ賞用す可き特效療法のあるを聞かざるを以てなり、彼のコッフ氏が創意に係る「ラベルク

リン注射の如きは一時名聲世上に轟きしと雖ども畢竟今日に於ては僅に試験的の應用に過ぎざる所なり

豫防法を大別して二となす、一は結核菌を撲滅するの法にして一は身體を強壯ならしめ以て結核の侵襲に抗せしむるの法なり、而して甲の目的には患者の排泄物殊に痰唾の如きは嚴に消毒し猥りに放棄するを禁じ、牛乳は煮沸して飲用し病牛の肉は一切食用を禁ずべし、又乙の目的には吾人日常の衛生法に注意して遺傳素因ある者は幼時より身體を強壯ならしむべき生活法を行ひ居室、飲食物、運動等を佳良ならしめ或は結婚法を制定して本病者の結婚を止むべし

本病療法中現今専ら行はるゝものは衛生的療法及び藥用的療法の二なり其の他古來種々の治法を施せしと雖ども皆効なきか或は有害にして方今全く廢して顧みる者なきに因れり(甲)衛生的療法(一)塵埃烟煤等を避けて新鮮清良の空氣中に起居せしめ(二)夏期は氣候良好なる山村(函根日光等)冬期は無風温暖の海濱(熱海等の如し)に轉居せしむ(三)身體及び精神の過勞就中座業、讀書、談話、疾走、登山、歌舞等の如き呼吸器官を過勞する事項は一切之

を禁ず(四)適宜に新鮮氣中の輕運動をなさしむ(五)微温浴冷水拭法等の皮膚清潔法を施こす(六)消化し易き滋養の食品を選び時々輕量の酒類を用ふ(七)結婚は既發の結核症を増劇せしむるものなれば宜しく之を禁ずべし

第參編 血行器病

心臟瓣膜病

原因 本病多くは心内膜炎より來る故に優麻質斯、既往病あるにや注意するを要す又た慢性酒精中毒、梅毒動脈内膜炎、心肉炎慢性腎炎等に來る瓣膜病は僧帽瓣不全閉僧帽瓣口狹窄大動脈瓣不全閉、大動脈口狹窄、三尖瓣不全閉三尖瓣口狹窄肺動脈瓣不全閉肺動脈口狹窄等とす

症狀 凡て血行障礙を免れず已に代償を失すれば呼吸困難、脈不正水腫尿量減少「チアノーゼ」等の症狀を呈す

療法 適宜の運動滋養易化の食物を與へ香料強酒類を忌む若し耐ふべくんば有力なる肉食少許の葡萄酒及び鐵劑を處す又た精神を安靜ならしめ溫浴に注意し全身熱浴は危険なれば宜しく身體各部の微溫浴を用ひて清潔を努むべし身體の劇動烈しき精神感動及び身神の抑制束縛等は凡て之を避くべし

調節機能を營む爲め心動甚たしく亢進するの間即ち心悸亢進は極めて安靜ならしめ心部の氷囊若くは冷水巻法少量の痲醉劑を與ふ

心臟内膜炎

原因 本病は其原因種々在りと雖も概ね左の如し

膿毒性骨膜炎、急性腎炎、關節痲麻質斯、室扶斯、猩紅熱、實布の里等にして稀には寒胃外傷、梅毒瘰癧、マラリヤ、痲病より起ることあり

症狀 急性に在ては惡寒、戰慄に始まり次で熱發す嘔吐或は下痢嗜眠狀或は喃喃語し脾臟腫大右室肥大、心臟雜音、黃疸等にして次急性は鼓動心部の壓重呼吸困難心濁音部擴張第一音に伴ふ吹聲雜音等なりとす

療法 對症療法を施すのみ即ち心臟部の氷巻法を施し内科醫の適當なる治療を必要とす

心 囊 炎

原因 急性關節痠痛、急性傳染病、壞血病、腎炎、胸膜炎、肺炎、結核等に由て來る
 症狀 惡寒發熱と同時に胸部疼痛、呼吸困難を來し、初め脈疾速にして緊張するも、後細小微弱となり、血行障礙の諸徴を呈す
 療法 時々惡寒あり或は發作狀惡寒ある者（又た心臟機能の微弱となる者）は左方より處し、胸部に冷罨法を施す

動 脈 瘤

原因 動脈瘤は四十歳乃至六十歳の者殊に男子に多く、又労働者に多し、而して其原因は動脈硬化、動脈内膜炎、其他脂肪變性及微毒等なり
 症狀 初めは諸症顯著ならずと雖ども、時日を経るに従つて漸く著明の症狀を現し、或は突然破裂し、卒死することあり

本病の症候は血行の障礙せらるゝに依り、或は近隣器官の壓迫せらるゝに因て起る、即ち心悸亢進、呼吸短息、咯血、不眠、心臟痛等を發し、或は漸進性の嚔下困難、背部疼痛、肋間神經痛

等を發し、或は當初より局部に鈍痛を發し、胸内に搏動あるを覺ゆることあり、又瘤の増大して迷走神經を壓迫するときは、嘔聲（喉頭痙攣）を起し、上大靜脈を壓迫するときは、顔面鬱血して發青し、下大靜脈を壓するときは、下肢水腫、肝臟腫大、腸加答兒等を起す
 療法 大動脈瘤には確實の治法殆ど之なし、唯々消化し易き滋養の食物を與へ、身體、精神の勞働を避け、醫により内服薬と一般對症療法を施すの外策なし

第四編 腦神經系病

吃逆(しゃつくり)

原因 胃病、子宮病、攝護腺病、「ヒステリー」、横隔膜の疾患、及び神經的感應之なり

療法 規尼涅其効を奏するものは、定型的に發作する者に極めて妙なり其他は一般に痲醉薬を使用す胃部には樟腦精を塗擦し氷片を與ふべし

疝 痛

原因 本病は、發作性に來る腸の劇痛にして酸敗性の食物、不消化物、腸管の瓦斯、蛔蟲、宿便、鉛毒、膽石の直接刺戟其他子宮病、痛風、「ヒステリー」、卵巢病、依百昆垚兒等は其原因となる

小腹部の臍部に發起する劇痛、風氣、及び知覺過敏等にして、發作中は顔面蒼白色となり皮

腦 震 盪

原因 齒痛は齲齒、寒熱の刺戟、或は飲食物の硬熱、其宜しきを失したるに基因す

療法 齲齒に起因するものは先づ微温湯を以て其窩内を能く洗滌し、食物の殘片等、總て不潔物を取り去り、結列阿曹篤の綿球を挿入し、且つ微温湯にて含嗽せしめ齒根骨膜炎に因する者は、微温含喇を用ひ、或は沃度丁度、芥子精を塗布すべし、兎に角齒科醫の早時治療を求むべし

療法 其原因即ち不消化物、便秘、膽石等に注意し食物の適當なるを選び下劑を投じ、腹部に温卷法を施し、或は温浴、按摩、灌腸等を行ふ

齒痛(はのいたみ)

原因 本症は外來の機械的侵害は其主なる原因にて、即ち頭蓋を打撃するか、或は外傷の腦を振盪せしむるに由て起る

症狀 初め來たるものは人事不省にして、次に脈搏細少或ひは遅徐體温の下降、呼吸遅徐となり皮膚蒼白となり及び厥冷、眼の瞳孔を縮少し尙ほ嘔吐尿閉等を現はすべし

療法 最初頭部を検査し損傷ある者は、剃髪して其部分を處置すべし而して稍々頭部を低くし嚴に安静を命じ室内を暗陰となし下腹には温布を貼し心窩上腹に芥子泥を施し頭部に氷巻法を行ひ淡泊の食餌、及び下劑を與ふ若し失神の持續するときは皮膚の刺戟、又は温布を以て摩擦し冷水灌腸をなすべし

顔面神經痛

原因 外傷皮下に竄入する異物腫物の壓迫動脈瘤、護謨腫或は骨管の狭窄骨或は骨膜の肥厚等にして其誘因となる者は反射性神經痛歇斯的生殖器病及び萎黃病等にして四十歳—五十歳の子に多く見る

症候 間歇性の發作ありて其當時は患部の皮膚灼熱刺痛し此際皮膚に抵觸し或は隙風或ひは精神の感動等は能く本病の發作を來す其合併症として汗腺腺等の分泌増加し顔面紅を潮し顔筋に痙攣を發することあり

療法 醫師は第一原因療法を施す即ち異物腫瘍癩痕等は之を除去し痲瘋室斯「マラリヤ」等より來る者には撒曹規涅尼等を與ふ萎黃病には鐵劑を處し梅毒には驅微法を施すべし其他神經切除術及神經展伸法を行ふ

躁 狂

原因 遺傳によるもの多く其誘因としては精神感動の急變、身體の疲勞慢性アルコール中毒頭部の外傷日射病等にして二十歳より二十五歳の者に多し

症狀 發揚して意識奔逸し身體の激動を發す前驅症としては初め病狀抑鬱を來し不眠を起し能力減少して萬事決斷し難く妄想性に陥る半年位にして治するものあり或は慢性癡狂となり或は死亡するものあり

療法 癲狂院に入院せしむるを最良となす自宅療養としても隔離法を施し懇に安臥静息をな
さしめ頭部に冷湿法を行ひ滋養物を與へ亢奮煩燥を避け看護を嚴にすべし

三叉神経痛(顔面痛)

原因 梅毒、レウマチス、マラリヤ、寒冷、貧血、ヒステリー、感冒、外傷等より起る
症状 顔面に發する發作性劇甚なる疼痛にして恰も電の如き放線狀波及をなす而して三叉神
經の第一枝の犯さるゝ時は前頭、眼球上眼瞼に波及し第二枝の犯さるゝ時は下眼瞼、上唇、
鼻翼、上齒列に波及し第三枝の犯さるゝ時は下唇及び下顎、下齒列及び舌尖に波及するもの
なり

療法 原因療法に因らざるべからざるも先づ發汗療法、發汗浴、按摩法、電氣療法、又は冷水
療法、軟膏塗擦等を行ふ

妄想狂(偏執狂)

原因 遺傳貧血、慢性アルコール中毒等より起り其他誘因としては餓餓結核、房事過度、マラ
リヤチブス、レウマチス、肺炎、精神過勞、驚愕苦心等なり

症状 幻覺、妄想觀念を以て主兆となす妄想觀念には追跡妄想、誇大妄想を多しとし時として
は心氣妄想、罪業妄想あることあり初め不眠、頭痛、眩暈、耳鳴、眼火閃發、精神過敏或は
抑鬱或は恐怖を發することあり全治するものあり又癡狂となり時に死するものあり
療法 全身症状に注意し便通を制し興奮を避け腦神經専門醫の治を請ふべし

脊 髓 炎

原因 梅毒、過勞、過勞、鉛中毒、急性傳染病外 他の脊髓疾患の波及より起る

症状 急性のものは劇しき腰痛、背筋の強直、發熱等慢性にありては腰痛、體端蟻走の感、膀胱
直腸痙攣等にして其他兩下肢の痙攣反射亢進又は消失等なり
療法 専門醫の加療を適當となす

脊 髓 勞

原因 本病の原因は未だ全く明かならずと雖ども梅毒を患ひし者に多きは統計上顯著なり又胃寒過勞房事過度遺傳等に由る慢性萎奴中毒は頗る脊髓勞と近似の症を發す

症候 初發の特徴は下肢電光様鑽痛或は指尖に蟻走様の感覺を訴へ他覺上膝蓋腱反射消失し瞳孔收縮變調等を認め時として復視弱視知覺變常を來すことあり次に第二期に現はるゝ特徴は共働運動障礙とす即ち主として歩行障礙を感じ膀胱痙攣足脚痙攣を來すに至る

療法 梅毒疾患の潜伏症狀に注意し驅療法を試むべし水治法温浴鑛泉療法は症に應じて選用すべし

ヒポコンデリー

ヒステリーを見よ

肋間神經痛

原因 本病は多くは左側第五より第九肋間神經に發する一種の疼痛にして屢々外傷胃寒或は肋骨脊椎骨の疾患に因り又脊髓病に原因す

症候 疼痛の主點は脊椎部肋間神經々路の中間胸骨端の三點あり

療法 平流電氣療法を最良とす即ち積極導子を一定點(例へば脊椎部)に固定して消極導子を移動し或は消極導子を一定點に固定し積極導子を以て疼痛ある神經の徑路に沿うて移動すべし内服其他の處置は醫療を待つべし

坐骨神經痛(胯神經痛腰痛)

原因 本病は濕冷寒胃足脚過勞妊娠子宮神經叢壓迫痔疾便秘尿毒蜜尿病萎黃病私的里脊髓勞等に因り男子に多し

症候 腰部薦骨部より坐骨神經徑路に波及する疼痛にして多く夜間に増劇するも發歇他の神經

痛に比すれば僅微なりとす経過稀に一二週に治する者あるも多くは數月を費す

療法 原因寒胃性なる時は温包發汗劑を與へ時として蒸氣浴を行ひ便秘に由て來るものは下劑を處し神經發起点及徑路に沿うて發泡膏を貼し慢性症には電氣療法按摩療法他動及び秩序的運動練習無血性神經展伸法時として血性神經展伸術温浴法等を施す電氣療法は中等強度の平流電氣一日五分と十分時を通ずべし按摩及運動法を行ふには時として麻酔薬を要す

電氣使用は通常積極導子を薦骨部に消極導子を疼痛部に抵つべし又強感傳電氣を用ふ

時として初期に局處湯血冷器法を行ふべき者あり

痲痺(しびれ)

原因 痲痺の原因は概して二様に分つ解剖的變態痲痺官能痲痺之なり甲は腦脊髓神經の經路中炎症變性新生物出血損傷壓迫等の爲に來るを稱しては寒胃酒毒鉛毒質扶的里室扶期梅毒結核歇私的里驚愕妄想等に來るを云ふ

症候 隨意運動障礙せられ多くは病肢筋肉萎削厥冷す然れども腦神經痲痺は決して變性萎小等

神經衰弱症

を來すことなきは診斷上の要點なり又痲痺の性質に由て弛緩性痲痺痲痺性痲痺に區別す

療法 痲痺を來せる原因寒胃梅毒等に由るときは其原因療法を施し其他は一般電氣療法温浴若くは冷水摩擦浴按摩法等を行ふ

原因 身體的及神經的、過勞、喫煙過度、手姪等なり壯年期に多し

症狀 神經衰弱症を別つに専ら其所患の機官を以てするときは(一)腦性(二)脊髓性(三)腦脊髓性(四)血管運動神經性(五)心臟性(六)生殖器性及び(七)胃性神經衰弱症(八)鼻性神經衰弱等是なり

(一)腦性の者は腦髓衝動し易くして乍ら疲勞し精神沈衰、鬱憂し神識變じ易く又過敏にして憂愁苦慮し往々交際を忌て幽居を好み他人に對して畏懼の念を抱く者あり(畏人癖)或は疾病に對して恐怖して止まず(恐怖癖)或は廣濶なる場所に至るを恐れ(恐場癖)或は反て衆人群集の地を好み觀劇等を好む者あり其他患者は頭痛、頭眩、頭重、眩暈、不眠を訴へ精神的

動作に鈍く或は視力減退、眼花閃發、暗點症を發し或は聽覺、味覺、嗅覺の變狀を現し或は皮膚の色澤變じ知覺異常を呈し異常の發汗を起すことあり(二)脊髓性の者は主として筋肉の疲勞、痿弱、震顫、搖蕩、腿反射亢進、知覺異常、遺精、交接不能等を致す(三)其他各器性の者は各器機固有の官能障礙を呈はすを以て特異となす

療法 精神を安靜にし冷水を以て身體を摩擦し冷浴を行ひ或は電氣を通じ若しくは按摩法をなす可し夜は早く寢に就き充分睡眠し就業と休憩とは適度に交換し強力の勞働を避け正規的の戶外運動體操等をなす可し食物は消化し易きものを選び且時間を定めて食し亞爾古保兒、茶、咖啡、煙草等を節し便通を調ふ可し海岸又は山間の地に轉地し海水に浴するは屢々著効あり試む可し青年に發する症は手淫を廢し攝生を護る時は十分に快癒するものなれば自ら慣しまざる可らず

急性氣管支加答兒

原因 急性氣管支加答兒は內科病中重要な者にして左の諸項に因て發するものなり(甲)素因あ

る者即ち小兒(殊に三歳以下の者)老人腺病結核家、虛弱家、慢性肺病ある者及び心臟病ある者は氣候の變換に抵抗する能はずして本病を發すること多し蓋し其誘引は感冒に在ること多し又平素健全なる者と雖も感冒に罹り次で本病を發することあり故に本病は感冒に因する者多しとす(乙)氣管支粘膜炎の直達刺戟に因る例之格魯兒、臭素、沃度、亞硫酸等の瓦斯、過度の喫煙、吐根末、塵埃等の吸入是なり(丙)隣器の炎症蔓延するに因り例之喉頭、鼻腔の加答兒に續發す(丁)他病に續發し或は他病の一分症となつて發することあり殊に傳染病(例之癩痺、流行感冒、百日咳、室扶的里亞等)慢性鬱血病、慢性の肺病、心臟病の如き)等是れなり

症狀 大氣管支の加答兒に於ては初め鼻、喉頭に加答兒を發し次で本病となる者多し而して多くは先づ惡寒を發して地張性の熱を起し頭痛、倦怠、食機不良となり胸骨裏面に搔痒若しくは鈍痛を覺え乾咳頻發して半透明にして漿液性の痰汁中泡沫を交ふる者少許を咯出す次で痰汁漸く粘液様となり後には多量の膿様痰となりて咯出容易となる但し此期に至れば熱候、倦怠等の症狀は通例消散せる者とす又往々病初より體溫の昇騰缺如する者あり

(乙) 細小氣管支の加答兒は小兒、老人に多し是れ小兒、老人は大氣管支炎に罹るも乍ち本病に轉じ易き素因を有するにあるなり然れども亦成年の者を侵すなしとせず而して本病は重症の一に屬する者にして就中小兒、老人に於ては最も危険なることあり是れ小兒の最小氣管支は元來狹隘なるが故に茲に加答兒を發するときは粘膜腫起して更に増々狹隘となるを以て呼吸困難を發し加之熱度増進するときは心機衰弱に陥ることあるに因る又老人に於ては既に肋軟骨は化骨し呼吸筋は羸瘦して完全の呼吸機能を營むこと能はざるのみならず心力沈衰に陥り易きを以てなり

病初は通例大なる氣管支に加答兒を發し次で漸く蔓延して細小氣管支に波及し體溫昇騰して脈搏頻數、微弱となり殊に呼吸の數増加して困難の狀を示し痰汁の咯出容易ならず乳兒に於ては爲めに哺乳すること能はず又稍々長する者に在ては苦悶の狀を現はして跪坐呼吸をなし時々咳嗽を發し此際頭首を前屈して顔面變感し煩悶、苦楚の狀を呈す或は冷汗淋漓、鼻翼顫搖、「チャノーゼ」を發し吸息時には胸廓下縁の陥沒を起し、終に炭酸中毒を以て斃るゝことあり

療法 豫防法として先づ原因となる可き一切のものを遠げ冷水を以て身體を摩擦し或は冷浴を用ひて皮膚を強固となし寒胃に侵されざる様にす可し若本病に罹りたる時は身體を温包し就寢して安靜を守り熱茶、葛湯、熱牛乳等を用ひて發汗せしめ或は胸圍に濕布巻法をなす可し痰の咯出困難なるものは屢々五十倍食鹽水を吸入せしむべし

神經性心悸亢進(動悸)

原因 心悸亢進は(甲)神經的原因の者あり即ち(一)腦髓性のもは歇斯的里、依卜昆的兒、神經感動、腦の腫瘍、出血、軟化等(二)春隨性のもは就中頸髓の腫瘍、出血、軟化等(三)神經衰弱性のもは神經衰弱症、神經過勞、房事過度、手淫等に因る衰弱、貧血、惡液質等、(四)反射的に起る者は神經痛、胃腸の疾患、腸中寄生物、子宮疾患結石等なり

(乙) 中毒的原因の者は煙草、茶、咖啡、酒精等の濫用之に屬す

(丙) 痔疾、經血の閉止、身體、精神の過勞等に因つて多くは少壯の者に此の症を發することあり

腦 充 血

症狀 本病は發作性に現る、心臟機能の亢進にして此の發作は數分時より數日間に亘ることあり而して發作時には心部に異様の感覺を起し心動亢進して強大となり呼吸不利、胸内窘迫を覺え脈搏は頻數、強實にして屢々不正となり頭痛、眩暈、耳鳴を發し顔面潮紅して苦惱の状態を呈し或は脈搏軟にして小、顔面蒼白四肢厥冷して冷汗を流し失氣、卒倒することあり

療法 原因に隨て適當の治療を施すべし

本病治療法には身體の強壯法を施し傍ら臭素加里を内服せしめ既に發作を現はすときは室内空氣の通暢を利して安臥せしめ心部に氷嚢或は芥子泥を貼すべし

原因 本病は實性と虛性との別あり

實性充血は、酒精飲料の過用、精神過勞、心悸亢進、營養障礙、卒中質の血統、胃病の便秘、月經閉止、多血家或は痔血の自歌等よりす

虛性充血に在ては肺氣腫、肺癆、肺萎、咳嗽、咽喉狹窄、血液循環の障害、腦脈管及び

腦 貧 血

交感神經の痲痺及び腹部の努力等なり

症狀 實性充血は顔面灼熱、眼の結膜潮紅し、頭痛、眩暈、耳鳴、瞳孔縮小、眼花閉發、心悸亢進、譫語、痲痺等を發することあり虛性充血に於ては頭部壓重、耳鳴、眼花、倦怠、精神操作を嫌ひ其他皮膚青色を呈すべし

療法 原病療法を第一として心臟病、肺氣腫を除去し頭部を高くし安静を嚴にし室内を暗黒ならしめ瀉血或は額部に氷罌法を施し四肢を溫保し有力の下劑若くは灌腸を行ひ生活の状態を整調し食量を節減すべし

原因 本症は全身の急性貧血、大出血、精神的感動、慢性に在ては營養不給、或は授乳經久慢性下痢、小兒には頭水病等より來る

症狀 急性症に在ては恐怖、耳鳴、眼火閉發、惡心、乾嘔、及び下肢軟弱の感あり後ち顔面蒼白色となり、加ふるに流汗淋漓、遂に卒倒するに至る然れども右の如き兆候は大抵速かに消

散すべし、慢性の者に在ては心神不安、恐怖を抱き眩暈、頭痛を起し不眠を來たし動もすれば卒倒す

療法 持長せる出血、經久の授乳、慢性下痢等を療し急性貧血に向ては頭部を低位にし下肢を高く平臥せしめ衣服を解除し冷水を頭部及び胸部に注ぎ嗅劑を與へ、小兒には下痢後溫暖にするを可とす而して全身貧血に基因する者は強壯劑即ち鐵劑、肝油等を用ふべし

舟 暈

原因 本症は即ち腦の貧血にして迷走神經の分布せる境域に於て、其作用の變調を發起せしものなり

症状 胃部の一種不快の感と、兼ぬるに悪心、嘔吐、頭痛、眩暈を發し身體倦怠を覺え、僅微の運動をも爲すに懶るく食慾廢如し、食臭を嗅くも直ちに嘔吐を催すに至る、加之體軀動搖して歩行するを得ず

療法 本病に向ては豫防法最も緊要にして、乗船前には滋養物を食し、故に可成的複雑の食は

取るべからず飽食又不可なり實見に徴するに淡白にして臭味なきを可とす乗船後は注意して甲板の中央に靜居し或は平臥するも敢て害なし又兩眼を收閉して反對なる運動を想像するも効あり此際に當ては少量に食物を分食すべし或は自己の好む處の香料物を鼻尖に宛て吸入すべし是れ船内には一種の異様の臭氣存在するを以て爲めに慣れざる輩は屢々舟暈を招くこと少しとせず

悪心及び嘔吐を減少せんと欲せば拘椽酸、沸騰酸を與へ胃部に誘導藥、前額部と頸部に氷巻法を行ひ又は大便の通利を促すべし

偏 頭 痛

原因 本病は多く婦女子に見る處にして、過房、月經異常、ヒステリー、癩麻室斯、麻拉里亞貧血、怒憤、遺傳、萎黃病、便秘等は其主なる原因となる

症状 前驅症としては不快なる眩暈、眼花、耳鳴、惡心、欠伸等を發すべし

大抵頭及び顔面上部の偏頭痛を發し音響及び光線に對する知覺過敏となり、瞳孔は縮偏くな

頭 痛

る患側頭痛は潮紅且つ温度の亢進を認め患部の皮膚蒼白厥冷することなり
 療法 血行器及び消化器の異常を去り體質の變常を治療するは最も肝要にして精神の興奮する諸件を避け發作中は成るべく静安を旨とし病者の素質に由て冷罨法を行ひ頗る奏効の著しきは偏頭痛桿(メントール)之なり其他間日には規尼涅、珈琲、臭素加里を與へ感傳電氣、刺戟脚踏、依的兒を頭部に點滴し按摩等亦妙なり

原因 本症は他症の續發兆候として起るものなれども、殊に腦疾患より來たる最も多く其の他胃腸病、梅毒、僕麻室斯、耳病、「ヒステリー」、貧血、萎黃病、齒痛、尿毒症、腸蟲等より發するものなり

療法 安静を命じ、新鮮なる空氣を吸入せしめ努めて身體の動搖を避け飲食物に注意し精神の勞作を禁じ、頭部及び項部に氷罨法を施し額竇の痛みには水蛭を鼻壁に施すも可なり爵血症に向ては貌羅謨加留謨を用ひ誘導劑としては芥子泥を背部に貼す安母尼亞の嗅入、額部と項

腦 出 血 (卒 中)

部には酒精と等分なる薄荷油を塗擦し電氣療法も亦可なり

原因 本症は遺傳素因を有する疾病にして腦動脈の慢性、動脈内膜炎は紡錘形の動脈瘤を形成し而して此動脈瘤は、身體の劇動、興奮、上圍時の努力或は熱浴暴飲、咳嗽等之が誘因となりて破裂せしむ患者は大抵四十歳以上にして、若し四十歳以下なれば多く梅毒に基因す其他頭部頸部の打撲及び白血病室扶私腎臟病等も亦其原因となることあり
 俄かに卒倒、人事不省となり左右の瞳孔は不同或は縮小散大となり脈膊遅く充硬となり呼吸緩慢にして鼾聲を帶ぶ開口流涎顔面傾斜し遂に死することあり然れども大抵徐に醒覺し已に半身不隨を現はし言語不明或は失語等を來たすものなり

療法 急速に其衣物を解除し、新鮮の空氣を吸入せしめ強壯の患者には刺絡を行ひ出血側の耳後に、水蛙を貼するも可なり然れども虛弱若くは老年にして衰弱せるものは此法を禁じ、腓腸部、胸部に芥子泥を貼す頭部は高舉し氷罨法を頭部に施し峻下劑を處し灌腸を施行すべし

又安母尼亞の刺戟薬を嗅入せしめ安静臥床を命じ室内を暗くすべし、加之對症療法を務め豫防策としては充血を招かざる様にし酒色及び興奮等を避けざる可らず

ヒステリー

原因 多くは遺傳性にして即ち精神病 神經病 患者罪人奇人等の子孫に發す其他外傷 月經異常、貧血、精神の感動、生殖器病、鉛、アルコール水銀、煙草中毒等より來り婦人最も多く犯さる男子の犯さるゝ時は之を男性ヒステリー、或はヒポコンデリーと稱す、腦神經を過度に使用する學生、官吏、投機業者等に最も多し
症状 頭痛、眩暈、耳鳴、欠伸、或は身體疲勞衰弱、沈鬱、厭世觀念等にして喜怒哀一定せず精神感動の變化不定なり其他諸神經痛、痲痺、痙攣、攣縮を起し又は癲癇様發作、惡心、嘔吐等を來すことあり

療法 原因療法を第一とし安静にして新鮮なる空氣中に運動し滋養食を採り繁雜なる業務を避け其他一般神經衰弱の療法に従ふべし

眩 暈(めまひ)

眩暈は急卒に發する外界事物の回轉、動搖、振盪を感ずる不快の神經症にして多人諸種の神經病 腦病胃腸病 患者若くは空腹時、不定不時の飲食後に來る而して本症は多く神經家、虛弱衰弱者、酒客、肥滿家、重病恢復期、貧血家、婦女子等に著し
療法 安静を主とし輕症には清涼劑にて可なるも高度の者には催眠薬を用ひ頭痛は冷却するを良しとす常は原因又は誘因となるべき事を避くべし

不 眠 症

腦病、神經衰弱、ヒステリー、ヒポコンデリー、其他重症患者の神經症を發したる時に發する一の症狀なり故に其治療法も原因によりて異なるは當然なるも多く催眠薬によりて効を奏す、原因となるべき病症を参照せよ

腦震盪

原因 腦部外傷及び其他の外傷にして腦髓震盪したる時に起る

症狀 人事不省となり脈搏細小にして遅く體温下降するを常とす時に上昇することあり全身蒼白にして厥冷瞳孔縮小して嘔吐尿閉を落す

療法 直ちに醫の來診を乞うて回生起死をはかり救急對症の處置を受くべしと雖も先づ安臥靜安を命じ寢所を暗くし頭部に氷嚢を置くべし其他救急法を参照せよ

鬱憂狂

原因 多く遺傳に因るも時に營養不良、驚愕、心痛、感情變動、妊娠、春季發動期、産褥の際に誘因となりて來るものなり

症狀 精神鬱憂、考慮制止、運動制止の三症狀を以てし其他精神の過敏、心身の疲勞、頭壓不眠、食思缺損及び便秘を起す全經過は大抵三乃至八ヶ月にして治するも時に癡狂に陥り又は

死することあり

療法 輕傷の外は必ず癡狂院に入院せしむべし自宅治療にありては多く自殺の不幸を見ること

多し先づ治療の目的としては鐵劑を用ひ營養を改良し周圍を靜肅になし精神の亢奮を避け安靜なる隔離法を最良となす

書癡(どもり)

多く寫字生、縫工、電信技手等に來る局所性の癡癲にして其聲門を犯すものを口吃と云ふ此の如き時には攝生法として可成大字若くは草字を書くことを心懸け一時職業を廢して療養をなすべし

第五編 產婦人病

妊婦嘔吐(惡阻)(つばり)

原因 妊婦の嘔吐は屢々遭遇する疾病にして、其原因となるものは、虛弱質、妊婦の神経質、萎黃病、又は子宮收縮に係る交感神経の反射的刺戟よりすることあり

療法 輕度の者は、沸騰散を與へ、攝生に注意し胃部に芥子泥を貼し、稍々重き者は氷片、フシヤンパン、酒等を與へ重症に向ては絶對的、食物を給せず卵黃、牛乳、肉脍等の灌腸を行ふべし

乳房痛

原因 本病は能く屢々見る處の病氣にして乳汁の過多ヒステリー或は生殖器官病に併發すること

は明らかにして乳房の神経痛なるは素より論を俟たざるなり

乳腺炎附乳房水泡疹

療法 原因療法を行ふは最も肝要なり其他綳帶を以て乳房を支へ温包を施す

原因 本病は一種の傳染毒質乳管より浸入し之に由て乳腺一葉の炎症を發する者とす傳染毒質は恐く「スタヒロコックス」又は「ストレプトコックス」の類なるべし

症候 通常産後二三週に來り惡寒發熱を兼ね乳房の劇痛を發す

療法 初期に在ては琶布を貼して輕く壓抵し後には醋酸鉛水の罨法或は左藥を外布す若し發熱三十九時以上に稽留し炎勢依然たらば恐くは化膿を免れず此時に在ては速かに醫治を乞ふべし

泌乳過多(泌乳過隘)

療法 産後泌乳過多にして乳汁水様透明なる者は輕量の硫酸麻偏淫兒謨を連用し併せて飲食物に注意す

眞性泌乳過多（即ち乳兒の哺乳を止むる後尙ほ分泌多量にして爲に衰弱を來すべき者）には乳房に壓迫繃帯を施し以て乳汁分泌を限制し兼て飲食物を制限す殊に乳汁を構成すべき食料を減省するに注意す此法未だ効を見ざれば多量の緩下劑（中性鹽類）を用ひて腸に誘導を促す

子 痛

症候 實性或は間代性痙攣にして人事不省に陥り口外泡を吐き呼吸聲を發す此の如きもの數分時或は尙ほ以上を稽留し度數三十回に及ぶ其状宛も癲癇に似たりと雖ども本症は多く發作後に尿中蛋白を來すを以て癲癇と區別す又た癲癇は特徴として發作の後長く嗜眠すと雖ども本症は然らず又た健忘症を來たすに由て癲癇と區別す

歌私的里性痙攣は眞の人事不省に陥ることなく又た健忘症なきを以て本症と區別し其他發作後昏睡に陥ることなし中風の發症は又た健忘と通常發作後局所痲痺を來すを以て本症と區別す

療法 先づ豫防法を以て其發作を減少することを努めざる可らず醫に就て問ふべし

臍膿漏臍炎及臍動靜脈炎

原因症候 臍膿漏は臍帶脱落后久しく膿を漏泄するを謂ふ

臍炎は臍帶脱落后二三日にして臍圍に炎性浸淫を發し按ずるに劇痛あるを以て號泣す時として丹毒を誘起することあり

臍動靜脈炎は生後一二日間に多し出産時毒素を吸收するに基因する者にして早晚腹膜炎皮下蜂巢炎等を發し多く死を免かれず靜脈炎に於て殊に不良なり

療法 豫防法を必要とす即ち産室を清潔にし臍の消毒處置に注意す已に之を發する後にありても乾燥防腐法を行ひ常に清潔を保つを要す

流 産

原因 胎兒の畸形臍帶の異常胎盤の疾病等及び母體の梅毒痘瘡、窒息高熱子宮内膜炎卵膜異常

子宮屈曲症等其他 外傷殊に墜落・轉倒精神感動(驚愕) 藥劑の内服等に起因す
 症 狀 妊娠三四ヶ月に於ける流産は出血を初兆し陣痛様の疼痛と共に娩出すれども最初數週
 間のうちは僅かの疼痛を伴ふのみにして多量の通經と異なることなし
 療法 妊婦は身體を清潔に保ち消化し易き食物を選び精神を安靜となし過度の勞働及び舞踏乘
 車等を避け房事を慎み梅毒を根治し内膜炎を治癒し専ら原因を除去するに務むべし

白帶下(白血)

原因 本病多く見る處の疾病にして不潔の交接、寒胃、痲毒、腺病性、房事過度及萎黃病等より來
 る

症 狀 全身の倦怠及食慾不振にして其他局部兆候として腔粘膜の炎症、充血、白色、粘液狀
 或は黄色、膿狀液の流出にして然れども一般に白色なるを以て白帶下の白血コシケ等の名稱
 あり

療法 豫防法としては前述の原因となるべき感作を避け急性の者には冷水注入を行ひ熱あると

きは酸性飲料を與ふ可し尙必要なるは身體の安靜にして慢性の者には強壯藥を與へ全身の營
 養を改良し注射法を腔内に施し之を洗滌し經久に陥りたるときは明礬單寧酸、偏利、設林等を用
 ふ可し

苦患不潔なるときは浴湯或は洗滌を行ひ陰部を清潔にし綿花填入法を施し全身療法としては
 肝油類を服用せしむべし

月經閉止

原因 本病は生殖機能ある婦人にして未だ天然の月經閉止時期に至らざるに妊娠と哺乳期の間
 に毎月來潮すべき月經の閉止を云ふものにして其原因となる者は全身或は器質發育不全、貧
 血、萎黃病、子宮諸病、神經遲鈍、感胃、精神感動等より來る

症候 定期に經水なきも或は月經中途の閉止之なり

療法 右の原因に注意して治療を加へ便通を調製し或は攝生に意を用ひ場合により溫泉療法轉
 地療法を行ふも可なり尙ほ脚湯、半身浴、芥子浴等を施し微溫湯を子宮腔部に灌入す可し

月經過多

原因 本疾病は急性なる諸病の初期子宮實質の弛緩或は子宮纖維瘤、子宮息肉、慢性子宮内膜炎、炎肥満房事過度は原因となる

症 狀 通常一月經中に泄らす所の血量は百乃至二百瓦なれども本病の如きは其量を越え泄らすを云ふものにして之を即ち月經過多と稱するなり

療法 努めて原因療法を行ひ局所療法としては冷水灌注法を施し慢性子宮内膜炎に因する者は婦人科専門醫により荒爛せる粘膜の除爬手術を受くべし

月經困難

原因 本病の原因となる者は左の如し

子宮前屈、子宮頸腫瘍、子宮頸管狹窄、子宮内膜炎及び卵巢炎之なり

病 狀 尿意頻發の感と月經に先ち或は月經時中に薦骨部腰部下腹部に發作性の疼痛を發し屢

妊婦及産婦急痛

原因 妊娠末期若くは分娩中に起る反射的作用なり

症候 頭痛眩暈耳鳴瞳孔散大呼吸困難若くは中絶嘔吐、顔面潮紅、直視痙攣噴泡、人事不省等なり發作の持続は十秒乃至六十秒或は其以上數分或は數時を隔て發作反復し遂に死亡することあり發作回数は二十回乃至三十回重きは其以上とす

療法 頭部の氷罌法冷水或は醋水洗滌發汗法下劑冷水灌腸等を施行す

腔膿漏(腔加答兒)

々胃瘞嘔吐、心悸亢進、頭痛、眩暈等を伴ひ而して月經止むときは諸兆概ね消散するにいたる

療法 身體を安靜に保持し務めて原因を採知すべし下腹部の温罌法を行ひ水蛭を貼するも可なり

原因 寒胃不潔、腺病、手淫、房事過度等なり
 症候 腔粘膜の炎症、充血、白色、粘液若くは膿状液の流出にして、其他食思、缺損、全身倦怠、腰痛の症
 状を伴ふ

療法 急性には冷罌法或は冷水注入法を行ひ、熱候あるときは兼て酸性飲料を與ふる。か又慢性症
 には其原因或は近傍器管の疾患、慢延の有無を搜索し、局處療法には注入法或は腐蝕法を行ふべ
 し

小兒には洗滌或は浴湯にて陰部を清潔にし、收斂藥或は綿花填入法を施す

腔 瘻 瘻

原因 陰門狹隘に關する交接或は手淫の刺戟過度、外科的疾患等にして、妙齡の女子に多し
 症候 陰門の知覺過敏、瘻管性狹窄等なり
 療法 微温坐浴を行ひ、婦人科醫の治療を乞ふべし

陰 門 癢 痒 症

原因 糖尿病、貧血、妊娠等より來る
 症候 陰門の灼熱、腫起、濕潤、糜爛等なり
 療法 原因療法を行ひ、且陰部の濕疹等に對する療法を試み、便通を利すること必要なり

陰 門 炎

原因 陰部の不潔、子宮加答兒、外傷、手淫、房事過度、梅毒、糖尿病等なり
 症候 陰唇の發疹、粘膜炎の腫起、潮紅、癢痒、「バルトリン」氏腺の腫大、或は膿潰及び粘液膿汁排泄な
 り
 療法 原因療法を專にし、洗滌劑を用ふ

子 宮 內 膜 炎

子宮外膜炎

原因 痲毒手淫寒胃月經時及產褥時の不攝生消息子誤用等なり
症候 急性症は悪寒發熱を以て始まり骨盤内壓重の感あり稀薄の液、後には膿様の液を漏す又慢性症は月經時に血量の増加及月經時外に出血すること下腹部の疼痛等なり其他頭痛食思欠損消化不良胃痛精神鬱憂「ヒステリー」併發することあり
療法 交換を禁じ安臥緩下劑溫坐浴腹部濕布綳帯を施し微溫消毒法を以て腔灌注法を行ひ腔坐薬を與ふ

原因 子宮實質炎の波及或は膿菌の傳染等なり
症候 腐敗性子宮外膜炎は悪寒高熱嘔吐下腹劇痛を發し滲出物吸收せらるれば諸症減退し滲出物化膿するときは體溫更に上昇し自潰して膿を漏し或は然らずして死す又痲毒性の子宮外膜炎は慢性にして便通交接月經時に増進するところの下腹疼痛なり
療法 急性期には消炎法を嚴重にして褥中安臥せしめ鼠蹊部に水蛭を放ち下腹に氷嚢を貼し熱

消散後には緩下劑を用ひ或は灌腸を行ふ又慢性のものには坐浴按摩等を行ふべし

子宮筋腫

原因 は不明にして春氣發動期後に發す
症候 出血と疼痛を本病の主徴とす
豫後 概ね良なるも消化血行泌尿を妨げ或は悪性腫瘍に變するの虞あり
療法 専門醫別出手術を早く施すにあり

子宮癌

原因 房事過度遺傳痲毒轉移にして四十歳以上の貧婦に多し
症候 肉汁様帶下出血惡臭疼痛便秘下痢嘔吐衰憊癌性惡液等なり
療法 婦人科外科専門醫の手術の外なし

子宮實質炎

原因 本病の急性症は子宮創傷、傳染病、痲毒性子宮内膜炎慢性の者は概して他の子宮病に續發す其他手淫、分娩後子宮收縮不全の際過房等は其原因となる

症狀 急性症は惡寒發熱下腹部の疼痛諸語衰憊膿汁流出惡心、嘔吐、下痢、尿閉、子宮の知覺過敏及び腫脹にして慢性症は便秘尿意の頻數腰部の疼痛、痲痛、子宮増大白帶下等は原因となる

療法 安靜臥意を命じ原因療法を専らとすべし骨盤部を高くし下腹部水蛭貼用を行ひ慢性に向ては毎日一二回腔内に列氏三十度の温湯を注入すべし而して下劑を給し温浴温温巻法等は其効あり

子宮出血

原因 其重なる者は左の如し

卵膜又は胎盤片の殘留息肉子宮の收縮不全纖維腫腺腫癌腫等即ち之なり

症狀 原因の異なるに従ひ一定せざれ共腔口より流漏せるを見れば一目判然なりとす

療法 安靜臥床及び飲食物の攝生を嚴にし且つ冷飲物を給し四十度の温度を以て子宮内注射を行ひ栓塞を施し或は下腹冷巻法を行ふ可し

卵 巢 炎

原因 主として痲毒寒胃腹膜炎、産褥熱、子宮外膜炎等にして慢性症は房事過度、精神劇勞子

宮内膜炎腔カタル之なり

症狀 靜安臥息を命じ冷巻法或は温巻法を行ひ下劑を投じ成るべく交接を禁せしめ慢性炎には温坐浴イヒチオールの塗布をなさしむべし

卵 巢 囊 腫

症候 醫診によれば卵巢部腫瘍を觸れ漸次増大腹腔を充盈するに至る打診に由て濁音を呈し

子 宮 脱

觸診に由て波動あるを認むべし

俗に「ナスビサガリ」と稱する子宮の高度の翻轉下垂症なり諸種の生殖病より來る其脱出の程度も病勢によりて異なる本療法は専門醫の治を受くる外なし

産 褥 熱

原因 本病は産後産婦に發する最も危険なる重病にして子宮腔、陰唇等に分娩の際創傷部より微菌の浸入することは明かにして悪露の腐敗せる分子不潔の海綿又は指頭等に毒の附着するに因する事あれば、産婆の注意周到すべき件少しとせず

症状 産褥の第一日或は第二日稀れに第三日に至て強劇なる、悪寒戰慄と急速なる體温昇騰を以て始まり脈搏は増進し且つ頭痛煩渴を訴へ腦症虚脱腦膜炎肺炎等の症状を呈し嘔吐下痢することあり而して惡臭なる腦性惡露を漏らすべし

療法 産婆は力めて産前産後に於て注意すべきは最も肝要なり即ち外毒の傳染を豫防するには適切なる消毒法を行ふは其職務なり然るに今や既に本症に罹れば止を得ず醫療により解熱劑として撒曹規尼涅を用ひ下腹部に氷巻法を施すべし

第六編 眼 病

結膜充血(のぼせめ)

原因 塵埃、風煙、異物、眼力過勞等より來る

症状 結膜は充血して灼くが如く又た刺すが如く或は異物あるが如き感を訴へ共に流涙あり

療法 原因を除きて冷湿法を施し眼科醫より與へられたる點眼薬の點眼をなすべし

急性結膜炎(血め)

原因 外氣の影響に基づく多しと雖も其本性に至つては未だ全く明かならず恐らくは一種の傳染質ありて空氣の媒介に由りて發生するものならん殊に春秋に多發するものなり

症候 輕症に在ては眼瞼結膜の穹隆部に著しく充血し血管網狀をなし其表面は平滑となり劇症にありては疼痛あり流涙甚しき爲めに眼瞼縁炎を發して糜爛し眼球結膜も亦充血腫脹し

慢性結膜炎

療法 主眼とするは原因を除去し或は結膜炎を消散せしめて分泌を減少し合併症を未發に豫防するにあり、局所療法として微温湯或は弱食鹽水を以て洗滌す

原因 急性症より轉じ或は塵埃風煙等に由りて發す或は眼瞼縁炎睫毛亂生淚管閉塞等は主なる原因なり

症候 急性症の如き刺激症状少なく結膜は暗赤色を呈し分泌少量にして僅かに眼瞼を粘着せしむるのみなれ共自覺性としては燭光の周圍に虹霓を見粘液分泌は異物の感をなし其他羞明灼熱及疼痛等なり茲に注意すべきは他覺症著しきも自覺症比較的輕微なること是なり

療法 眼科専門醫の治療を受くべし

濾胞性結膜炎

原因 主に眼の不攝生より來たる者にして兵營、監獄、學校等に流行性に發起す

症状 眼瞼結膜炎中殊に下眼瞼結膜穹窿部の外側に於ける濾胞の腫起を兼ねる加答兒性炎症にして若し炎症甚盛なる時は濾胞は下眼瞼結膜及び上眼瞼結膜に發生すべし

療法 眼科専門醫の治療によるべし

眼瞼縁炎(たゞれめ)

原因 (甲) 全身症に基因する本症は常に兩側に發するものにして全身貧血、結核症、腺病性の小兒に多く稀には遺傳性なるものあり之に屬するものは不潔の空氣塵埃煙熱夜業等の如き總て慢性結膜炎となるものなり(乙) 局所原因の最も屢々なるは慢性結膜炎大人には「トラホー」ム」涙囊炎等の爲に涙液の刺激によりて來り又は涙液は排除妨害せらるゝに基くとあり而し

て其涙液排泄は眼瞼外翻症顔面神經痲痺先天性及後天性眼瞼短縮等に由て妨害せらる

症候 (一) 鱗屑性眼瞼縁炎睫毛間の皮膚及其近隣に於て灰白色或は白色の小鱗屑を生ず而して之を拭去すれば其下眼瞼皮膚は充血す又稀には眼瞼縁に黄色の結痂を生じ其性或は臍脆に或は柔軟にして脂肪様なり之を除去するも潰瘍を呈することなく只皮膚充血するのみ(二) 潰瘍性眼瞼縁炎眼瞼縁に黄痂を結ぶと雖も之を拭去すれば唯に皮膚の充血のみならず潰瘍を認む是も囊濾胞より發生するものにして其他小膿腫を呈するものなり或は已に癩痕を形成するものあり故に本症の鱗屑性と異なる所は疾患の部位深くして且化膿を來すに在り

療法 腺病性のものには滋養劑を與へ、其の原因たる疾病を治し局所療法としては冷卷法を行ふ

膿漏性結膜炎(風眼)

原因 本病は痲毒の傳染に由て來るものにして「ゴノコックス」と稱する重球細菌なり而して醫士看護婦等の痲毒患者を檢診したる不潔の手指に由て間接的に傳染し或は自己の指先手巾衣

服等を不知不識眼に致すより本病を發す
 症候及經過 本病の發生するや數時より二三日に至る潜伏期あり之を経れば結膜の全體殊に
 乳頭發赤腫張して浮腫し堤防状をなして角膜を周擁す眼瞼も亦發赤腫張して下垂し之を壓す
 れば疼痛あり而して分泌物は初め漿液様にして少許の膿を見る之を「第一期」浸潤期とし二
 三日にして次期に移る初め漿液様なる分泌物は全く濃厚なる膿汁となり恰も濃乳汁の如くし
 て臉裂より湧出す乳頭は著しく肥大して化膿盛なるに従ひ眼瞼及結膜の腫張及疼痛は漸々緩
 解す然れども此期は危険なる角膜病(潰瘍)等を合併するものなれば注意するを要す「第二
 期」次で漸々諸症消散し膿性分泌減少して漿液性となり四週——六週日を経て諸症全く消散
 するものなり然れ共亦屢慢性炎症の状態を貼するものあり之を「第三期」即ち慢性膿漏期と
 名づく

初生兒眼膿漏の原因及發病時日 胎兒の産道を通過するの際「ナイツセル」氏の「ゴノコツケ
 ン」の眼中に侵入するに由りて發するや疑なしと雖も又出産後産婆の媒介に由りて傳染する
 ことあり又は時日を経て發するものは父母の懷抱之か原因たることあり而して分娩後本症を

發するは二日乃至三日稀には四日若くは五日にして眼瞼の輕微なる潮紅及腫張並に膿様分
 泌を來す(豫防法)「クレイデ」氏は二%ノ硝酸銀水を點眼し好結果を得たりと、即ち兒の
 分娩後一般清潔を行ひたる後清潔なる布片に水を浸し點眼の汚物を拭去してのち點眼するな
 り
 療法 豫防法を專一とす若し痲疾に罹るときは指を清潔となし且つ手巾及什器等は消毒し可及
 的に接觸せざる様注意し若し一眼本病に罹るときは他眼に防護繻帶を施し感染を豫防せざ
 る可らす

トラホーム(顆粒性結膜炎)

原因 本病は傳染性を有する重球細菌「ゴノコクス」に類似して膿汁中に在り故に分泌旺盛なれ
 ば従つて病毒を蔓延せしむ而して一眼より他眼に傳染するは什器手指手巾等の媒介となり或
 は同患者と器具を共用する爲本病の大に蔓延すること有り故に學舎、兵營、監獄、育兒院等
 に多きが如し是と同一理に基き貧民の密接して住居する土地には甚だ多く又時として流行性

或は風土性となり來ることあり

症候 「第一期」概するに本症は一般結膜炎の徴候を有し中年者に多く小兒及老人に少なく就中塵埃の氣中に働作せる職工に多し粘膜穹窿部に扁平灰白色の顆粒を生じ殊に上眼瞼に多し結膜充血して輕微の刺戟症状ありて外少視力を害す此の期を経れば「第二期」顆粒は破潰して一部は脂肪變性によつて吸収せられ一部は破潰となり其面は肉芽を生じ膿様分泌旺にして刺戟症も亦甚だしく角膜に「パンヌス」或は潰瘍を發し内壓に抗する能はずして角膜膨脹症を發するときは通常肉芽によつて癍痕を結ぶものなり、「第三期」次で結膜所々癍痕形成を終に全面に波及す而して此機能の爲めに驗球癒着症及結膜、角膜共に乾燥症を起すことあり經過は緩漫にして數十年の久しきに亘り角膜翳を發し視力を害せらる或は角膜に潰瘍等を發すれば所謂角膜膨脹症を發す其の豫後は病勢著しからず治法其當を得たるものは豫後最も可なり、然れども病の頑固にして眼瞼及び角膜に變狀を來す者は多少其視力を害し或は全く失明す

療法 其目的二あり一は炎症發作及之と關係せる多量の分泌を制限す一は結膜の肥大を退却せしめて其收縮及び之れが爲め生ずる不良の結果を豫防す此兩目的は共に腐蝕藥を以て達し得べし之が治療に向ては眼科専門醫の手術の外なし

角 膜 炎

原因 腺病、梅毒、急性傳染病、外傷及び他の眼疾患殊に結膜等より續發するものなり
症状 角膜は溷濁し血管發生し羞明を訴へ疼痛を伴ひ流涙あり角膜面に水泡又は潰瘍を生ず
療法 原因療法及び局所療法を速に要すべきも先づ眼科専門醫の加治を至當となす

角 膜 翳

原因 角膜炎、角膜潰瘍及び外傷等より起る
症状 角膜面に白色又は灰白色不透明なる又は半透明なる斑翳を現す恰も明月に村雲の懸りたるが如き状態なり
療法 直ちに専門醫の治療を受けるを要す

角膜潰瘍

原因 重症結膜炎、慢性結膜炎、涙囊膿漏と併發し又直接刺戟、外傷、痘瘡後等に來る潰瘍形成の直接原因は恐らく微小體の角膜組織中に進入するに由る

症候 炎性潰瘍、無炎性潰瘍の別あり甲は疼痛、涙漏、羞明、角膜周圍の充血等を認め角膜中央若くは周邊に潰瘍を生ず乙は刺戟及炎性症狀を呈せずして潰瘍を生ず

療法 嚴に臥蓐に就て安靜を主とし眼科専門醫の治療を乞ふべし

虹彩炎及毛様體炎

原因 虹彩直達の刺戟角膜炎、脈絡膜炎の波及に由りて來るも殊に多きは梅毒性、腺病性とし又痲瘋質斯結核癰腫麻毒急性傳染病、糖尿病の經過中に發す其他交感性に來る

梅毒性虹彩炎は梅毒第二期に來る急性傳染病中再歸熱に來ること最も多し

症候 虹彩炎の病的滲出物を現出する部位に瞳孔縁、虹彩後面若くは前面虹彩組織中の別あ

小 林

り又單性虹彩炎漿液性虹彩炎、虹彩實質炎、梅毒性炎の別あり、毛様體炎も亦成形性、漿液性、化膿性炎の別あり

療法 何れも眼科専門醫の治療と共に光線及諸般の刺戟を避け便通を調整す即ち眼繃帶、眼鏡或は遮光眼鏡を用ひ淡暗室に居らしむ室内は平等溫暖に保ち凡て眼の刺戟を避くるを要す

炎症劇甚なれば濕溫療法、巴布器法を兼用す

急性淚囊炎

原因 急性淚囊炎は慢性淚道加管兒、鼻淚管狹窄梅毒性鼻骨膜炎、鼻潰瘍等より誘發し又寒胃に由て來る

症候 初期は内眥近傍の皮膚潮紅近圍の腫脹を見次で炎症、眼瞼結膜に波及し腫脹漸く甚しく其形淚囊に應じたる硬結をなし遂に中心より軟化し波動あるに至る

療法 初期に在ては先づ水療法を行ふこと二時間乃至三時間にして消散を試むも可なり然れども數時間にして消散の徴なければ、寧ろ溫療法として毳布を貼用し化膿に至れば醫により穿

刺或は截開して膿を排すべし而して排泄口には細小なる排泄管或は綿紗を送入し久しく留め温養法も亦破開後數時間持長すべし然るときは尙ほ少時膿腫するを常とす切開後眼瞼皮膚の浮腫を貽して消退し難き時は水銀軟膏を塗擦して良効を見る可し又涙囊炎の初期に在ては充分の壓抵綿帯を施すを良とす然るときは化膿に至らずして屢々治に就くべし

脈絡膜炎

原因 梅毒、マラリヤ、妊娠、月經不調、其他全身病又は近視より來る

症狀 俄然視力減少し眼瞼充血、腫脹、結膜の腫脹、角膜の混濁、眼球の突出、疼痛、發熱、惡心、嘔吐を伴ふ、後角膜鞏膜は破壊し、膿汁を排出す時に膿汁なく諸症退散することあり

療法 茶酒類咖啡を禁じ淡泊なる食物を與へ下劑を與へ其他原因療法及び對症療法を務むべし其れが爲めには専門醫の早期治療を受くべし

綠 内 障

原因 老人、營養不良、衰弱其他の隣接眼疾患より續發す

症狀 急性と慢性とあるも急性症にありては前驅期を有し食事後又は精神劇動後睡眠不足等の後に發作症を以て起る其發作時にありては燈火を見れば其周圍に赤色の虹霓を表し燈火と虹霓との接際に暗黒輪を存す其他事物を視るに朦朧として霧中にある如し

全身症狀としては頭痛、顔面痛、嘔吐、發熱、食慾不振、視力減退等なるも間歇時に移れば諸症全たく舊に復する如くなるも是れは全治と見做すべからず發作日ならずして再發を來すを例とす豫後は概ね不良にして失明するものなり

慢性症にありては諸症急性の如く著しからずと雖も發作輕度に再來して遂に失明の不幸に陥るものなり

療法 早期適法を施す時は豫後良なることあるべければ速かに専門醫の治療を受くべし素人療法は危し

白内障

原因 先天性即ち遺傳によるもの及び外傷、老年其他糖尿病又は虹彩毛様體、脈絡膜、硝子體等の疾患より來る

症状 瞳孔内一般に灰白色又は白色を呈し自訴としては飛蚊症、夜盲症、晝盲症、多視症、弱視を起す

療法 手術療法を最良とす専門熟練醫に治療を受くべし

斜視(やぶにらみ)

斜視は俗に「やぶにらみ」と稱して眼筋神經の運動不全に因るものにして患側眼は内外何れかの皆部に偏し瞳孔及び虹彩部は一側に轉位す現今手術療法によりて治療す

眼精疲労症(つかれめ)

原因 神經衰弱症、過度の書見、不眠等より來る
症状 眼力減退して視力明瞭ならず朦朧として視物に輪暈を表すの感あり
療法 原因を攻治し精神を安靜とし睡眠を充分となし消化し易き滋養食を採るべし

黒内障及び弱視

原因 腦疾患、半盲症、ヒステリー、營養不良、夜盲症、雪中旅行、晝盲症、神經衰弱、煙草アルコール、藥物中毒、尿毒症、脚氣、失血、蛔蟲、神經痛等より起る

症状 半盲症は物體の半面を見るのみヒステリー弱視は視力減弱、視界狹小、色神障害を呈し夜盲症は弱き光線には視力缺損し盲の如く強き光線には異常なし晝盲症は強き光線には視力障害を發す

療法 原因療法を施すべきは勿論なるも直ちに専門醫の治療を受くるを至當となす

亂視

原因 正、不正の亂視あり不正亂視は角膜翳白内障等より正亂視は遺傳白内障手術後、外傷等より起る

症狀 不正亂視にありては視力不全、複視等を呈し正亂視は視力不全を來す故に一物を視るも實體を明視すること能はず

療法 専門醫に就て眼鏡の適當なるものを選び之れが矯正に力むべし

麥粒腫(ものもらひ)

原因症候 本病も亦た皮脂腺排泄口の閉塞に由て來り面部陰部等の毳毛ある部分に生ず其内容

上皮細胞と皮脂絨毛等より成り其大さ碎細麥粒或は麻子大を常とす

療法 面皰壓出等の類を以て球狀體と表皮の一部を壓出すべし又苞布粥の類を以て蒸騰し石鹼水を以て洗滌すべし

近 視

眼調節機の屈折變狀より起る症候にして、過度の書見、手淫、眼鏡亂用等之れが原因となる適當の眼鏡によりて調節せば明視となるべし可及原因となるべき事を避け高度の眼鏡を用ひざるを佳とす

夜盲症(夜目くら)

原因 本病は殊に多きは幼年者にして夏期に發すること甚し營養不給は其原因なるが如く而して流行性なることあり之等は監獄に繋留せらるゝ幼年の者に多く分娩前後に發すること或は強烈なる光線に基くものありと云ふ

症狀 患者は黄昏に至れば頓に視力減じ殆んど盲目者の如く爲めに補助者なくんば何等の用を便する能はざるに至る然れども燈火に對すれば急に視力増加す是に於て最初綿密なる眼底検査を施すも著しき變化を見ず

療法 營養を十全ならしむる爲めに鐵劑規尼涅等を與へ殊に主として肝油スコット乳菓を授與するを可とす之れ數多の實驗に徴して明なりとす

第七編 小兒病

鴛口瘡(白舌)

原因 患者は多く乳兒に見る所にして、口内の不潔、之が原因となり、大人に在ては、窒扶斯結核病、産辱熱、白血病等より來たる、哺乳時に當て乳兒は疼痛を發し、又屢々綠色なる糞便を瀉することあり最も確實とする所は、口腔及び咽頭の粘膜に米粒大の斑紋を點々發生するにあり

療法 一日頻回百倍の硼砂溶液三十倍の重曹水を以て口内を洗滌し時々布片に前記の溶液を浸し患部を清拭すべし、場合に由て哺乳の節減、又は一時休止することあり

百日咳

原因 此の疾病は大抵二年乃至六年の小兒に發する者にして春冬二期の寒冷の時に於て流行性

に來り病原は一種の病毒傳染に基因す
症狀 單純なる氣管支加答兒の如き症候にて始まり二三週の後に至れば固有の咳嗽を發す其咳嗽は時々發作性に來り數分間すれば將に窒息せんとする容體を現はし微なる咯痰ありて鎮靜となり然るときは又平常の如く經過は二月以上にして或は六七月に亘るものあり動もすれば加答兒性肺炎を合併することあり

療法 輕症に在ては天氣晴朗なる日には戶外に散歩するも可なり然れども寒氣と濕氣に觸れしむ可らず、室内は空氣の流通を善くし大抵溫度は華氏の六十度に保持すべし初期には單純なる鎮咳劑を與へ健兒は嚴に隔離し發作の時には病兒を扶助して粘液咯出を促がし、富有なる滋養物、鐵劑を與へるを良とす

腦膜炎(驚風虫)

原因 本病は二年乃至七年の腺病性の小兒に多く見る處にして實に最も危險なる疾患にして、其死亡するもの甚だ少しとせず、結核性腦膜炎は、結核「バチル、ス」其原因となり單純の腦

膜炎は、頭部の外傷及び岩礫部、骨瘍、流行性寒胃、丹毒、肺炎、室扶斯、日射病膿毒症等より來る

症状 食氣不振、違和、倦怠、精神 變狀、或は微熱を呈し、又は卒然、痙攣を以て發起し、顛門の濁大隆起あり、便秘、吐腹陷沒、脈搏緩徐となり嗜眠、遂に昏睡を發す其他單純性は寒戰、溫度の暴騰、眩暈、劇烈の頭痛、昏睡、譫語、嘔吐、牙關緊急、脈搏は不正遲徐となり痙攣、搐搦等にして經過は大約一二日乃至十日なりとす

療法 最も肝要なるは有力なる消炎法にして即ち頭部に氷罨法を施し峻下劑を與へ冷水灌腸、及び頭部冷水灌注法も可なり強壯の者には水蛭を貼附すべし其他室内の溫度を同均に保持し加之内部を少しく暗黒ならしめ、安靜臥床に注意すべし

小兒急癩(ひきつけ)

原因 二年以下の小兒に多く五年以上には稀なり故に小兒に獨特の反射的疾患にして即ち腸胃内の蛔蟲異物より來り或は生齒期の困難精神感動等より起るを常とす其他は腦疾患胃腸加答

留、下痢、便秘、急性、發疹病 急性熱性病等の前驅期に發するものとす
症状 不眠の状態となり咬牙、號叫強直を發す其他顔面蒼白、痙攣、直視、噴泡、仰倒、厥冷、遂に人事不省となる

療法 生命は原因の異なるに従ひ一定せず故に先づ原病に注意し發作時には冷罨法治水摩擦法等を行ひ又は灌腸を施すも可なり腦の充血及び貧血に注意し發作の間歇時には安靜を專らとし藥劑には鐵劑を與ふ

小兒吐瀉病(嬰兒コレラ)

原因 此病氣は夏時炎熱の期に最も多きものにして寒又は飲食物の不攝生等より來る

症状 吐瀉甚しく痙攣を兼ねるに腹鳴を發し皮膚は厥治し或は腓腸筋の痙攣、搐搦、脱力音聲の嘶啞を發すべし

療法 生命に取ては危險なり先づ安臥及び飲食の攝生を嚴にし直ちに醫療に任すべし

夜 驚 症

原因 三才又は六才位の小兒に多く腸胃病、扁桃腺肥大、癲癇、精神激動等より來る

症状 夜中睡眠中突然醒覺して心悸亢進を起し恐怖の感を呈し而して十五分乃至二十分位にして其發作止みて安眠す患者はこの狀況を記憶することなし

療法 醫療を受くべし

小兒急性消化不良

原因 乳汁及飲食物の不良、母體の精神感動又は過勢及衰弱等より起る

症状 乳兒にありては顔面は蒼白となり心身不安、食氣不振にして吐乳し加之綠色、惡臭ある糞便を漏して屢々啼泣を發す

小兒にありては心身不安、食氣不振、胃部の疼痛及吐氣等を呈し時に便秘し或は下痢し多く發熱を伴ふものなり

小兒慢性消化不良

療法 小兒科専門の醫士に診察を求め其指示によりて生活法を轉換し或は哺乳法を制限すべし 猥りに素人療法を施す勿れ

原因 腺病性、結核性又は貧血性のものに多く又た急性より續發するものなり

症状 食氣不振、心身倦怠、便秘等なり

療法 急性症に同じ

第八編 耳鼻咽喉病

耳下腺炎

原因 本病は、耳下腺の炎症に罹るものにして春寒秋冷の時候に起る者は流行性にして續發性の者は、口腔加答兒、膈室扶斯、急性發疹、膿毒症、結核等より來るものなり
患者は大抵片側耳下腺部牽引性疼痛、咀嚼の困難、頭痛、發熱あり末期に至ては化膿破潰することあり

療法 濕温療法を行ひ、唯だ炎症と疼痛の甚しき時は冷湿法を行ひ下劑を投與し及び酸性飲料を給すべし

急性中耳炎

原因 鼻加答兒 咽喉加答兒と共に加答兒性の症狀を起し麻疹、痘瘡、實扶的里、室扶期等よ

りは化膿性を起す

症狀 加答兒のものにありては疼痛、耳鳴、聽力減退等を呈して一日乃至四五日の後に鼓膜穿孔して分泌物を排漏するものなり又た化膿性のものにありては劇痛、耳鳴、頭痛等ありて殊に小兒及虛弱家、婦人等にありては發熱及び譫語を發すること往々見る處なり發病後數日乃至二週間にして鼓膜穿孔して膿液を漏出するものなり

療法 精神の感動及び身體の運動を禁じ便通に注意し發熱ある時は臥褥すべし先づ中耳炎の症狀あるときは速に耳科専門醫に適當の治療を乞ふを專一とす

慢性中耳炎(耳漏)

原因 多く急性中耳炎より續發するものなり

症狀 習慣性耳漏、及び聽力障碍等を發し時々發作して急性症狀を起す其時は急性中耳炎に同じ

療法 急性中耳炎に同じ

耳垢堆積

原因 耳聾、分泌過多、耳掃怠慢等なり
 症状 外聴道堵塞の感、重聴、時に耳鳴、眩暈、疼痛を發することあり稀に嘔吐卒倒等起すことあり

療法 微温湯洗耳又はグリセリン點耳等を施す

急性鼓膜炎

原因症候 冷却油類拔爾撒謨の滴入等不適當なる薬用に因て發すること多し
 常に判然其分界を認む而して初期及末期に於ては鼓膜上に放線狀に走行せる血管を見極期に在ては鼓膜光澤を失し鉛色を呈し上皮疎鬆にして剝脱し槌骨の着點明瞭ならず遂に穿孔癰痕を形成す
 聴覺は唇僅に減少し分散狀疼痛を訴へ常に騒鳴を感ず

慢性鼓膜炎

療法 總て刺激を避け著明なる異物は之を去り水蛭或は人工吸角を迎珠に貼して瀉血し「ライテル」氏の冷滲装置或は温罨法をなし温罨法は殊に蒸氣を用ふるを可とす然れども時期を斟酌之を行はざる可からず

原因症候 么微有機體の繁殖に由り又は體質に由て發し僅に疼痛を覺ゆ聴覺著しく鈍重となり滲出物被膜を附着し又肉芽を發生す其他急性期より遺殘せる癰痕穿孔を存するあり
 療法 耳科専門醫により治療を受くる外なし

聾(つんば)

聾は中耳又は迷路等の内耳の疾患によりて起る一症候にして其輕きものは所謂難聴なり高度にして聴力缺除せるものは全聾なり聴力の障碍は其原因によりては素より差異ありと雖も難聴は多く治癒的轉歸を採ることあるも全聾は回復の望み渺し現今人工鼓膜の装置によりて補聴す

耳漏

ることを得

急性中耳炎を参照せよ

衄血(鼻血)

原因 衄血は自發性の者あり殊に頭部充症に發し易し又創傷或は鼻腔の病疾例之潰瘍鼻茸慢性鼻炎等或は慢性全身病例之白血病出血素質血友病心臟病動脈硬變萎縮腎貧血黄疸等或は急性熱病の一症となりて發することあり

症候 出血に先つて頭痛頭重耳鳴顔面潮紅等の前兆を呈はすことあり或は卒然一側の鼻孔より血液点滴し或は多量にして前鼻孔より流出するのみならず後鼻孔より咽喉腔に流下することあり而して出血少量なるときは敢て恐るゝに足らずと雖も大量なるときは乍ら失血症狀を呈はし失神卒倒等の如き腦貧血症を發することあり

療法 軽度の衄血は僅に綿球塞法に依て止血す可しと雖ども若し頻回反覆するときは(殊に體質虛弱の者に於て然り) 鹽浴等の全身療法に適することあり

鼻息肉(はなたけ)

種類 (甲) 粘液性息肉鼻腔前部に生じ其外壁及び甲介骨粘膜に生ず(乙) 纖維性息肉鼻腔後部に後鼻孔近部に生ず

症候 「第一期」粘膜腫脹して空氣流通を妨げ少しく鼻音となる「第二期」呼吸に應じて腫瘍移動し空氣の流通を妨げ患者睡眠中口を開くを常とす「第三期」鼻腔を全く閉塞し腫瘍は漸々鼻孔外に現出し或は後鼻孔より現出して咽喉に向つて下垂す「第四期」次で嗅感を失し腫瘍の壓迫に由て鼻粘膜に炎症を起し血液敗濃等を排泄し且つ涙囊及び眼球は壓迫を被り眼球突出し終に腦を侵すに至る

療法 收斂劑を用ひて縮小を企て醫により或は之を剔出す

急性鼻加答兒

原因 急性鼻加答兒は頗る多く見る所にして年齢の少なるに従つて益々之に罹り易し又一回本症を患ふ時は甚だ再感し易き癖を貽す而して體質虚弱、貧血なる者、遺傳微毒ある者、腺病家等は殊に本病に罹ること多し本病は感冒に因るもの最も多く通例春秋の季に於て温冷變換定まらざる時に多し其他鼻粘膜の直達刺激に因ることあり(例之塵埃、煙煤、或は藥物等)或は近傍の炎症例之咽頭、喉頭、口内の加答兒、顔面の炎症等の蔓延に因り或は傳染病の一分症となりて發することあり

症狀 本病は初め微熱頭痛を發し鼻腔乾燥、閉塞し噴嚏を催し最初は無色透明の稀汁を漏せども漸く分泌増進して濃厚なる粘液膿様液を出だし嗅覺は消失し鼻呼吸は粘膜腫脹、分泌增多の爲に妨げられ音聲は鼻調を帯び皮膚薄弱の者に在ては往々鼻下の皮膚糜爛することあり、又本病蔓延して眼、前額竇、中耳に及び或は喉頭、氣管支に波及するときは涙漏、羞明、前額疼痛、耳痛、耳鳴、嘔聲、咳嗽或は近隣の神経痛を發することあり

本病は通例三四日乃至五六日にして諸症輕快して治を得るものなれども、體質不良の者に在ては終に慢性症に轉することあり

療法 衣服を温包して暖かなる室に居らしめ葛湯、温牛乳、燕麥湯、熱脚浴等を用ひて發汗せしむ可し又仰臥せしめ前額部を氷又は水を以て冷却するも宜し飲料は一二日減量して與へ鼻汁は劇しく拭はざるを宜しとす

慢性鼻加答兒

原因 慢性鼻加答兒は腺病家、微毒家等の如き體不良の者に多し急性症より轉する者あり或は急性症の原因微弱なる者反覆彌久するに因て起る者あり其他鼻潰瘍「鼻茸」等に續發することあり

症狀 慢性症に於ては初め鼻道の粘膜腫起するを以て呼吸を妨げ言語は鼻調となり嗅味の感覺鈍麻し往々衄血を起すことあり分泌物は粘液狀或は膿狀にして多量なるあり或は却て少量なるあり然れども後には通例惡臭甚だしき帶綠黄色の膿狀物となり(臭鼻症と云ふ)

忽ち乾涸して瘡痂を結び之れを剝離すれば出血す其他頭部壓重、精神沈鬱等を發することあり

療法 慢性鼻カタルには全身療法を必要となす即ち腺病質の者には肝油、沃鐵舍利別の如き者を與へ海水浴鹽浴を行はしめ善良の食餌を給すべし又梅毒の疑ある者には宜く驅微法を施すべし

扁桃腺炎

扁桃腺は、咽頭の兩側にある桃核大の器械なり

原因 寒胃より來り或は飲食物の刺戟、及び猩紅熱、麻疹、梅毒、間歇熱等より續發す
症狀 扁桃腺の腫起、或ひは疼痛ありて、嚥下困難にして、開口不隨となり、流涎、及び發熱等

療法 軽度なるときは、冷療法と行ひ、而して數回含嗽せしめ、焮衝劇しきときは、氷片を飲ましめ外方よりは水銀軟膏を塗擦し、又は沃度丁幾を塗布す

咽頭加答兒

原因 本病は、急性のものゝ慢性のものとの二種あり急性の者に在ては、寒胃、長き時間の談論、又は唱歌、溫熱なる飲食物、其他梅毒等に續發す

慢性のものは心臟病、肺病等に續發するなり
症狀 此の病氣は、最初惡寒發熱し、又頭痛あり、飲食物の困難、及び談話するに困難を來たし、食物の不味を覺え、流飲あり、咽頭の粘膜紅く且腫れ、慢性のものは咽頭乾燥せるを感じ、並に燒灼の感と、癢痒の感あり、殊に早朝咳嗽後に當つて多量の粘稠なる喀痰あるをみる

療法 本症は生命には格別の事なしと雖も注意して喫煙、書籍の朗讀、及び芥子、葵等の辛きものを嚴禁し氷片を咀嚼せしめ尙ほ一日數回含嗽すべし、其他頸部に氷罨法を行ひ、慢性のものは酒と煙草を禁止し、含嗽劑を用ふべし

喉頭加答兒

呼吸器病の部を見よ

聲門水腫

原因 梅毒結核癌腫其他腎臟心臟肺臟等の疾患又は急性傳染病より起る

症狀 原因及び病勢によりて一定せざれども高度のものは強度の嘶嘎と笛聲音を發し窒息の危険症を供ふ喉頭に疼痛あり異物阻塞の感を自覺す顔面暗紅色に變ず

療法 氷片を與へ頸部に氷罌法を施し水蛭を放ち下劑を用ひ病勢増進の傾きあらば速に専門醫に治を乞ふべし

聲門痙攣

原因 寒風冷水浴呼吸器或は腸の加答兒尙僕病蛔蟲貧血にして四ヶ月以上二年以下の兒童に多

し大人には稀なり

症候 發作間歇性の聲門收縮に係る窒息狀の疾患にして多くは夜間に發す顔面蒼白眼球突出

上腹部陥没失神全身搖蕩の症候を現はす間歇するときは笛聲を發す

療法 發作の際醋或は冷水を浸せる布片を用ひて全身を摩擦し顔面には冷水を注ぎ而して攝生法を嚴にし人工營養に代ふるに母乳を以てし又室内の換氣に注意し成るべく新鮮濕温の空氣を呼吸せしむべし

喉頭潰瘍

原因 梅毒結核チブス等より起る

症狀 潰瘍を生じ喉頭嘶嘎て頑固の咳嗽を發し局部の癢痒を感ず

療法 原因によりて異なるも速に醫治によるべし

喉頭結核

原因 本病は多く他臓器の結核と併發す原發性喉頭結核なる者は未だ疑團の裡にあり
 症狀 自覺症狀は略ぼ慢性喉頭加答兒に記するに異ならず喉頭鏡検査を行ふも初期は單純加答
 兒に於けるが如く末期に至つて初めて潰瘍水腫等の症狀を發す略痰検査は毎に必要なり
 療法 結核一般の全身療法を行ひ攝生に注意し局所療法は先づ消毒薬吸入吹入塗布を行ひ咳嗽
 甚だしきは癩醇劑腫起あるは收斂劑等を處す

第九編 泌尿生殖器病(花柳病)

陰 痿

原因 陰痿とは陰莖短少なるか或は勃起せざるを以て交接作用を全うする能はざる者を云ふ其
 原因左の如し(甲)生殖器病(一)陰莖の發育不全腫瘍化骨或は包皮繫帶の短縮陰囊水腫鼠蹊腸
 陰等にて陰莖を短縮せしむる者(二)睾丸の發育不全睾丸切去炎症腫瘍萎縮等に依て陰莖勃
 起する能はざる者(乙)神経系の疾患(一)殊に脊髄勞(二)精神の感動即ち耻羞憂愁等(三)中毒
 症即ち臭素加里莫兒比涅樟腦酒精等の中毒(丙)全身衰弱症即ち過房手淫蜜尿病慢性消化
 器病腎臟病等にて身體衰耗せる者等なり
 症候 陰莖勃起せざるか或は勃起すると不全にして交接に先ち情意鬱勃すと雖も既に其機に臨
 めば早く射精して陰莖忽ち痿小す而して病増進するときは陰莖全く勃起することなく淫慾又
 減退し或は全く絶ゆることあり

遺 精

原因 遺精は(一)遺傳に因るあり殊に神經家に於て然り(二)手淫の妄行(三)房事過度(四)生殖器及び其近傍の局所疾患例の膀胱加答兒尿道炎、攝護腺炎、精囊炎、精囊壓迫、包莖包皮内の脂垢堆積、膀胱結石、痔疾、便秘肛門裂創、濕疹寄生蟲、會陰部の外傷等(五)神經系の疾患に因て病的に淫慾亢盛する者例之脊髓勞の初期脊髓外傷、癲癇等(六)身體衰弱に因て刺衝機亢進する者例之肺結核室扶斯の快復期等に於けるが如し

症候 輕症の者は夜間往々陰莖微に勃起し姪事を夢みて遺精し或は毫も之を知らざる者あり又重症に在ては陰具僅に外物に觸るゝか或は精神感動あるも忽ち遺精し陰莖軟痺して勃起することなし而して患者は衰弱羸瘦して顔面蒼白眼窵陷沒頭痛眩暈耳鳴等起し神思振はず思考記性の兩力減弱し知覺機に異常を呈し歩行蹣跚四肢震顫し食機缺損心悸亢進呼吸短促等を

療法 専ら原因療法を施し精神的の者に在ては溫言以て之を慰諭し努めて勇氣を鼓舞すべし其他全身の強壯療法を施し海浴陰部の冷水洒浴を施し兼て電氣療法を施すべし

膀 胱 痲 痺

發し終に全く陰痿となる而して其精液を取り顯微鏡下に照すに精蟲皆未熟にして圓形を呈し尾は纖少にして屈曲卷縮し活潑の運動なく又精液甚だ稀薄なり

療法 専ら原因療法を施し力めて情慾の發動を抑制し全身に強壯法を行ひ其他藥劑療法又電氣療法を施すべし

原因 膀胱痲痺も亦排尿筋に起るあり或は括約筋に發し若くは兩筋共に侵さるゝとあり而して其原因或は神經系の疾患によるあり或は膀胱の局處疾患或は筋肉瘦削に係はるあり故に本病は老人に多く又手淫家好色家に多しとす

症候 排尿筋の痲痺にありては尿意を催すこと甚だ少くして排尿時に於ては尿の淋瀝を致し或は排尿全く止みて所謂痲痺性尿閉症を起し膀胱非常に擴張するに至るとあり又括約筋痲痺するときは小便淋瀝して所謂痲痺性尿失禁を發し動もすれば咳嗽談笑等に於て不隨意に尿の漏洩を致すことあり

膀胱痙攣

療法 主として原因療法を施す

原因 膀胱痙攣とは膀胱の排尿筋或は括約筋の痙攣を云ふなり而して神経系統の疾患に因るあり或は他器官の疾患に依て反射的に發するあり或は骨盤内臓の疾患に續發することあり蓋し本病は中年の婦人殊に神経質の者に多し

症候 排尿筋のみ痙攣に罹るときは患者絶えず尿意を催し或は尿の淋瀝することあり又括約筋のみ痙攣するときは排尿困難にして劇痛を發し尿意急迫して僅に尿の滴瀝するに過ぎず或は全く尿閉することあり(痙攣性尿閉)

療法 膀胱筋痙攣は醫士が其原因を探て之を療し其他は對症療法を施すものなり

膀胱結石

原因 結石は尿中に含有する鹽類の沈澱に因るものにして窒素に富める滋養品を多食すれば尿

酸及鹽類を腎盂膀胱等に沈澱す其他痛風に於ては血液中尿酸増加し尿中にも分泌す又鹽類を多重に含む飲水にも之を發すと而して多くは膀胱内の異物即ち凝血包蟲及其屑片之れが核となり尿酸鹽類其周圍に沈着し漸々増大して大なる結石となる其筋の勞役は收縮に由て「ミラヂン」分析せられ遂に尿酸及尿酸鹽泌別せらるゝに由て本病を發することあり

症候 結石少なるものは間々膀胱加答兒の症を呈するのみなれども大なるものは疼痛苦惱を覺え坐臥歩行等に際し結石の膀胱口にあるものは排尿困難を來し尿は性質を變じて血液粘液及膿汁を含み之を放置する時は尿中の鹽類と混じて沈澱す小兒に在ては排尿時努力するを以て「ヘルニヤ」及び脱肛を續發す時に尿鬱滯を起し腎臟水腫を來し或は尿毒性に由て死す

療法 醫治により適法を受くるを緊要となす

尿道狭窄

原因 (一)品質性狭窄 は以下の者より多發するものにして即ち慢性淋、及尿道外傷後に發す又尿道周圍結締織の發育に由て發するときは之を胼胝性狭窄と云ふ(二)炎性狭窄 は急性

淋或は外傷の爲め尿道粘膜に腫脹若くは浮腫を起して狭窄す(三)痙攣性狭窄は神経疾患の爲に反射的に尿道筋纖維痙攣する者にして主となすものは近傍臓器即ち膀胱直腸肛門裂傷等の炎症に續發する反射性痙攣に由る其他酸性尿(痛風病糖尿、腎盂炎)の刺激に由つて發す

症候 尿道狭窄を起せば尿管細小となり且滴瀝して排尿を妨ぐ而して狭窄部の後部は擴張して膀胱尿管腎盂等に波及し其部に尿を蓄積して分解し爲めに膀胱炎を續發し死因をなすことあり

療法 熟練なる沙尿生殖器専門醫によりて適當の治療を受くる外なし

遺 尿(寢小便)

原因・症状 本病は先天的虚弱の者或は營養不給膀胱の疾患、腸蟲、包莖を患ふる者の罹り易きものなり而して其兆候としては夜間睡眠中臥褥内の放尿なりとす

療法 原因に由て異なり膀胱の弛緩に向ては冷水洗滌及び坐薬を用ひ尿意頻數には温坐浴を行

ひ虚弱なる小児には鐵劑を與へ就中有効なるは電氣の膀胱刺戟法にして又冷水療法強壯劑を處するも可なり腸蟲を確定せば驅蟲薬を與へ包莖患者には外科手術を施す可し

精 液 漏

原因 本症は老年者に少なく就中壯年者に多くして精神的不振生者之に罹る即ち手淫に發せる神經衰弱症房事過度、泌尿生殖器の局所病、包莖尿道狭窄惡液質等なり

症状 睡眠中愉快の感覺を以て精漏すると乗車騎馬の際或は上園時に當りて勃起及び快美の感

を發せずして精漏することあり
療法 原因を除き強壯薬を與へ海水浴水治法運動牛乳療法を命ず又平流電氣を施すべし攝生を嚴にし便通を調整するを肝要とす

軟性下疳(かん瘡)

原因 本疾患は大概不潔の交接に基因する者にして下疳毒の傳染なりとす

症狀 初め病毒せる部は痒癢の感あり次で水泡を生じ速かに潰瘍に變ず而して周圍柔軟瘡縁低く其底面豚脂様を爲し大抵疼痛あり而して潰瘍は通常男子に在ては龜頭繫帶及び包皮の龜頭に附着する部に發し婦女は小陰唇の内面及び後連合に生じ同側鼠蹊腺の腫起膿膿を致すことあり

硬性下疳

原因 種々あれども一種の梅毒菌に基くことは彼のルストガルテン氏の證明に依る
 症狀 殆んど疼痛なくして鼠蹊腺腫を併發する者にして大概龜頭冠狀溝陰莖皮膚包皮繫帶、大陰唇後結合に發する硬結なり故に初め小膿疱を以て現出し、次で潰瘍に變ず其周圍邊緣屹立且つ瘡面鮮紅色にして咀嚼せられたる鮭肉に似たり
 療法 デルマトールを散布し軟膏又は硬膏等を用ひ而して周圍の浮腫焮衝に向ては冷療法を命すべきは勿論之れと同時に合併症をも治療を施さざる可らず

膀胱加答兒

原因 本病は急性の者は尿道炎の波及寒胃不潔カテーテルの汚物送入底列並油又は梵膏の誤用
 酸敗し易き酒類飲用慢性に在ては左に記する者其原因となる急性の不治結核附近臟器炎症の波及經久又は頻次の蓄尿尿石等なりとす
 症狀 急性症は惡寒發熱次で頭痛惡心を發す尿意頻數となり且つ放尿時の疼痛と尿は帶紅色になり反應は酸性或は惡爾加里性にして之を檢鏡すれば許多の赤血球膀胱上皮僅小の膿球を認め慢性症は急性に比して諸症候極めて微なり然れども尿濁濁多くは亞爾加里性反應にして少數の赤血球數多の膿球及膀胱上皮を見る
 療法 原因療法を行ひ急性には安臥静息を命じ膀胱部に温療法を施し又は芳香巴布を貼すべし其他座浴を行はしめ劇痛に向ては肛圍及び會陰に水蛭を放ち而して刺戟性の飲食物は之を避け便通を整ひ飲料には牛乳を與ふ慢性には温泉療法も可なり

急性腎炎

原因 寒胃、實扶的里、丹毒、猩紅熱、天然痘、敗血症其他は結核梅毒、麻刺里亞、藥物中毒に在ては石炭酸歇答里斯鹽剝等にして又不詳なる原因より來る

症狀 惡寒發熱次で頭痛、腎部疼痛、惡心、嘔吐及び食氣減損を呈し水腫は殊に顔面に甚だし尿量は減少或は閉止し而して濁濁濃厚及び比重増加す故に尿中蛋白存在するを以て益々確診するを得べし且つ合併症には肋膜炎尿毒症肺水腫を發す

療法 安静を命じ醫によりて緩和の利尿劑を與へ浮腫には熱浴及び發汗劑を處すべし尙ほ滋養物を食せしめ牛乳療法亦た可なり而して適當なる居住地を選定すべし

尖圭膀胱腫

原因 痲病消渴及び不潔分泌物の刺戟より來る

症狀 恰も數の子に類する小隆起を多發し摩擦ある部には疼痛を發し時に出血あることあり

水痘

療法 撒布劑を用ふれども根本的には外科的手術を適當となす

原因 小兒に發する流行病なり

症狀 十四日位の潜伏期を有し輕熱を以て全身に紅色斑を發し其斑は速に大小豆粒大の水疱に變じ内に水様透明の液を含む一二週間にして治す

療法 多く藥劑を要せず安静に就褥を命じ消化性食物を與ふれば自然治するを常とす

陰囊水腫

原因 局所症より來るものは辜丸の衝突、打撲或は痲疾、梅毒性、結核性、辜丸炎等主なるものにして全身症より來るものは血行障害、心臟病、肺病等より來り小兒には陰囊の摩擦本病の原因となる

症候 初め患者は著しき障害なし其發生緩漫にして又經過中疼痛あるとなし其腫大するもの

に至つては大人頭大に至り交媾起居及び排尿を妨ぐ
療法 醫治によるの外なし

副 辜 丸 炎

原因 梅毒稀に結核外傷膿毒症、痘瘡等なり
症候 淋性の者は腫起、疼痛急劇なれども結核性には大抵疼痛なく慢性にして頑固の膿瘍に陥る者少からず其他發熱、輸精管炎、精系部及び鼠蹊腺の腫起劇痛を合併することあり
療法 淋毒性副辜丸炎に於ては直ちに静臥を命じ提辜帶等適宜の方法に依り辜丸を高舉し又氷罨法若くは温罨法を行ひ下劑及び酸性飲料を投じ且飲食の攝生を嚴にすべし

辜 丸 炎

原因 梅毒、結核、梅毒、外傷、尿道狹窄、攝護腺炎、膀胱加答兒流行性耳下腺炎等なり
症候 淋毒より來るものは副辜丸に次で侵され腫起疼痛共に大なり梅毒より來るものは腫起疼

疼痛共に小にして其護膜腫性なるものは經久梅毒に來りて終に破壊するなり
療法 副辜丸炎を對照せよ

攝 護 腺 炎

原因 「急性症」は通常尿管及び生殖器の炎症(淋疾等)を攝護腺に蔓延し其他外傷、血行異常、尿道狹窄及膀胱等に續發すること少からず或は室扶斯膿毒性粗暴の「カテーテル」使用劇しき交媾等「慢性症」は急性症より來り或は尿道の假令は慢性淋尿道炎狹窄等なり房事過度手淫等より發す

症候 「急性症」は膀胱部及び會陰部に排尿及び便通の際疼痛を生ず殊に身體を動搖するに由て甚しく腰部龜頭及び股等に波皮す加之尿意頻數、裡急後重、排尿困難及尿閉を起す而して直腸に指を送入して檢する時は其前壁に於て硬く腫張し知覺過敏なる攝護腺を觸知す且會陰部に疼痛を發し肛門括約筋に痙攣を起す

療法 「慢性症」は初期會陰部に及び直腸前壁に水蛭を貼し其他坐浴温巴布を施し下痢には止瀉

劑便秘には下劑を投じ内服には清涼劑を與へ又衰弱するものには滋養強壯劑を與ふ化膿するに至れば切開して膿を漏す

「慢性症」は會壓の深部に於て壓迫せらるゝが如き感を覺え排尿時に輕微の疼痛を發す其他攝護腺瘻を發して牛乳の如く濁濁したる液を滴瀝す

痲 疾

原因 痲疾の毒は一種特異分裂菌即ち「ゴノコツケン」なり本菌は一千八百七十九年「ナイセル」氏之を痲毒患者の膿汁中に發見せり細小なる球狀菌にして常に二個連結し其兩端の接觸面は深く陷凹す此菌は自動性なく分裂作用に依て増加し顯微鏡を以て檢すれば通例胞體內に此菌數多群集するを見る本病通常不潔の交接に由て尿道及生殖器粘膜炎の分泌物に感染して發するもの最も多し而して結膜肛門粘膜炎等に傳染することあり

症候 (甲)急性痲疾男子に在ては初め尿道の全部灼熱癢痒を覺え尿意頻數となりて窘迫し一少時に變じて灼痛となり殊に排尿に方て疼痛忍び難く尿道口の粘膜炎は赤色腫起し初は粘液

様の分泌物を出せども乍ちにして帶緑黄色の純膿となり往々血液を混へ或は凝血を雜ふることあり而して患者は頻りに春情を發動して遺精し殊に夜間勃起して爲に安眠を妨ぐるに至ることあり此時は多くは全身に發熱し鼠蹊部の淋巴腺腫起し包皮は炎性に浮腫して包莖或ひは後包莖を起す若し膿液龜頭と包皮との間に鬱滯する時は之に炎症を起して龜頭包皮炎となることあり此の如き急劇症に於ても患者運動を避け攝生を護るときは三四週にして諸症減退し五六週を過ぐるときは疼痛膿漏等の諸症消散して治を得べし然れども患者攝生を誤り療法を怠る等のとあるときは一時排膿の量減少して粘膜炎となるも微々たる誘因に因て乍ち増劇す此の如く病勢増長を致すとき遂に慢性症に轉ず女子の痲疾は數々尿道子宮頸腔稀には子宮の内面「バルトリン」氏腺に起ることあり初めは尿意頻數陰部に煩痒灼熱を覺え春心發動し尿道或は陰部より多量の膿汁を漏し尿道に方て窘迫灼熱増劇し陰唇は往々腫脹發赤して灼熱す次で往々尿道粘膜炎或は腔内苦くは子宮頸の粘膜炎潰爛し尿道口或は子宮口より膿汁を漏出するを見る又子宮口發赤腫起して陰唇は膿汁の爲に糜爛して或は内股に及ぶと屢々之あり其他體溫昇騰下腹疼痛等を發することあり女子の痲疾に續發し易き者は「バルトリン」氏腺炎子宮

炎、喇叭管炎、卵巢炎、膀胱炎、腎盂、腎炎、尖圭贅肉、直腸痲性炎、月經困難、月經不順
 或は不妊症等なり男子の急性痲疾に續發し易きは(一)尿道周圍炎「クーペル」氏腺炎、攝護腺
 炎、痲毒性關節炎、副辜丸炎、辜丸炎、膀胱炎、腎盂、腎炎等なり(乙)慢性痲疾より轉ず分
 泌物は常に持續して漏出することあり粘液狀にして朝時尿道口部に粘着し苦くは陰莖を壓迫
 摩擦するときは僅に粘膜様の小滴を漏す或は唯小塊となりて尿と共に排出することあり又尿
 中に血液或は粘膜様の凝血を混することあり而して出血し易く或は尿道狹窄を起す經過は甚
 だ彌久にして數月數年或は數十年を経るも尙時々稀膿を漏し其間病勢消長す慢性痲疾に續
 發し易きは尖圭贅肉包皮炎症龜頭炎(化膿して潰瘍を生ずるときは之を龜頭痲と云ふ)包莖後包
 莖箱頓包莖尿道狹窄等なり

療法 痲疾の傳染を豫防せんには交接後直ちに放尿して二%の硼酸水にて陰部殊に尿道内を清
 洗し或は交接時陰莖に護膜袋を被すべしと雖も必ずしも傳染を免れ難し(甲)急性痲疾本症の
 感染後未だ二日を経ざるものには古來頓挫法として種々の藥劑(皓礬單寧明礬等の強溶液)を
 試用せしが多くは確効を得難く從つて膀胱炎副辜丸炎等を續發し易し先づ患者を安臥せし

め酒類茶香料鹽味強き者を禁じ糖水牛乳等を與へ二%の硼酸水にて數々尿道を洗滌すべし又
 發熱して疼痛ある者には下劑を投じ溫浴を命じ會陰部及び陰莖に冷卷法を施すを良しとする
 も可成早期花柳病専門醫の治療を受くべし猥りに素人療治は後患を招く

便 毒(よこね)

原因 下疳に續發するものにして即ち下疳局處の刺戟に因ること多く例之(一)下疳に刺戟性の
 局處療法を施すにより(二)或は身體勞動長途の旅行體操乘馬等に依て局處を刺戟するにより
 (三)或は酒精飲用房事過度等に依て之を誘起す

症候 本病は通例下疳發生後一週間に於て兩側の鼠蹊水脈線に發するを多しとす初めは鼠蹊腺
 腺中の一個若くは二三個に急性の炎症を發し腫脹發熱疼痛し按壓或は歩行に因て疼痛増劇す
 皮膚は赤色にして漸々腫脹増大し遂に化膿して波動を現はし疼痛熱候減退し自潰して排膿す
 るものとす而して其治癒に赴く者は長性肉芽を生じ周邊より癒合して癩痕を結成するものな
 れども苦し瘡縁肥厚硬結し或は空洞狀をなすときは癩痕結成すること困難にして經過頗る遅

徐なり通例排膿後四週間にして治するものなれども深部に侵蝕し或は皮下に膿汁流注して股動脈を破損するに至るときは極めて危険の大出血を起し或は腹膜炎を續發するの虞れあり又腺病家に在ては炎症久時に亘りて治癒期大に遷延することあり之を瘰癧性便毒と云ふ

療法 患者に攝生を護らしめ運動を禁じて安臥を命じ局部には鉛糖水の冷罨法をなし其吸收を促すべし若其炎症消散の望なきときは時機を測つて速かに防腐的切開法を行つて膿質を盡く切去すべし

梅毒

梅毒は一種特異の傳染毒に因る全身病にして其毒を感受する時期に従つて先天性梅毒、後天性梅毒の二種に區別す又本病の経過は通例一定の通規あり故に之を別ちて第一期第二期及第三期となす蓋し第一期梅毒性とは硬下疳瘍發性の時期を云ひ第二期梅毒性とは皮膚粘膜炎及全身の水脈線に變狀を呈する時期を云ひ又第三期梅毒性とは全身殊に骨質及び内臟に於て所謂護膜腫を發生するの時期を云ふ

原因 梅毒病原に就ては諸説紛々として未だ一定せずと雖も恐らくは一種の細菌に因るものなるべし(甲)先天性梅毒は病毒を精液或は卵珠中に含有するに因り或は妊娠中母體の梅毒に罹るに因て生兒に遺傳するものなり故に一に遺傳性梅毒の名あり而して之が爲めに兒の胎内に在るも數年の後に至て初めて病症を現はす者あり總て胎中に在て病毒を感受したる者は皆之を先天性中に算入すべし(乙)後天性梅毒通例病毒は第一期及び第二期中の下疳潰瘍及び皮膚粘膜炎の微毒性患部の分泌物中に含有して之を健康體に傳輸するに因るなり而して本病を感染するは専ら交接の際便下疳の膿汁を陰部に傳へ或は稀に第二期症即ち口唇咽喉鼻腔等の微毒性分泌物に觸接して陰部の外他部に傳染することあり蓋し各人の稟賦相異なるに隨つて善感及不善感の素質あるを以て其膿汁に汚染したる食器煙管醫療器械細帶等を用ふるに由て口唇手足等に感染する者と否らざるものとあり但し本病患者の生理的分泌液中精液を除くの外涙涕汁唾汁乳汁尿及び氣管支粘液等は通例傳染毒を含むことなしと云ふ

症候 (甲) 先天性梅毒遺傳梅毒に罹る胎兒は流産或は早産すること多し幸ひに分娩産出するも

其皮膚は皺襞を現はして羸瘦し外貌憔悴して稍や老人に髣髴たり(乙)後天性梅毒潜伏期は通例三四週なれども亦時としては較々長短をなすことあり(第一期)潜伏期を輕たる後ち先づ傳染部に硬固なる無痛性の小結節を生じ數日を経て潰瘍となり瘡縁、瘡底共に硬固にして漸く増大し少許の膿汁を漏す初發硬結部の破潰するに方て旁ら近隣の水脈腺に數個の硬腫を生ずれども通例彼の軟下疳に因る化膿性の者と區別せざる可らず以上の諸症は通例一二週乃至五六週持續し次で第二期の症狀を現はす(第二期)に於ては全身諸部の水脈腺硬腫し且つ皮膚及び粘膜の諸症を以て之を徴知すべし此期に於ける皮膚病の斑狀をなす者は紅斑、蕁麻疹なり軀幹四肢稀には前額に生ず其疹狀を致す者は粟粒疹及蕁麻疹なり殊に扁平贅肉を多しとす又疱狀をなす者は水疱疹膿胞疹にして鱗屑狀を致す者は疹狀結節の増育するに因る乾癬なり頭部手掌足蹠等に發して皸裂す(第三期)に於ては諸器諸組織に護膜腫を生じ或は諸種の慢性炎を發して各自固有の症狀を呈す

療法 熟練なる花柳病専門醫に就き完全なる治療を受くるが肝要なり

横 痃

原因 軟性下疳又は梅毒、痲疾より起る

症狀 鼠蹊腺に腫起を來し初め單個の腺を犯すも漸次症狀増進すれば瘰癧々として諸腺に及ぶ軟性下疳より來るものは炎熱疼痛甚し 寒熱往來して頭痛頭重心神不快なり而して後ち化膿に陥り外表に自潰す痲疾に來るものは軟性下疳より來る如く急性ならずして化膿すること尠し梅毒性のものは炎熱疼痛なく亦た化膿すること稀なり經過慢性なるが故に無痛性横痃の稱あり

療法 軟性下疳痲疾より來るものは安静を専らとし勞働を避け冷卷法を行ひ又は濕温卷法を施す皮膚未だ異常なき時には沃度丁幾水銀軟膏等を塗布すべし梅毒性のものは完全なる驅微法を施すべし何れにありても専門醫の醫治を受くれば後患なく安全確實なり

第十編 皮膚病

顔面狼瘡

種類 (一) 鱗屑性狼瘡、表皮鱗屑狀に剝離するもの (二) 肥厚狼瘡數多の散在性結節物漸次密接して外見肥厚したるが如し (三) 潰爛性狼瘡結節性潰瘍に陥り四方を蠶食す

症候 初め鼻翼及び頬部に小結節を生じ後變じて潰瘍となり乾酪變性し濃厚となり終に吸收せらるゝものあり經過慢性にして漸々周圍に蔓延し隣接せる組織を刺戟し其部に炎性新生物を生じ臍組織を壞疽に陥らしめ終に肉芽を生じ癩痕を結して治癒するとあり若し病氣蔓延して深部に侵入する時は顔面の軟骨或は硬骨を荒蕪し爲めに鼻尖唇等缺乏し甚しき醜態を來す

療法 外科醫の手術或は治療を乞ふべし

汗疹

小林

原因 汗腺分泌機能の亢盛に係る刺戟なりとす

症状 其發疹撒發性にして無色なるあり或は赤色にして一樣ならず皮脂腺の排泄患部に發す

療法 本症に對して禁忌すべきは刺戟藥にして石松子粉澱粉等効あり

疥 癬(ひぜん)

原因 本病は能く甲より乙に移り甚しく傳染するものにして爲めに一 가족悉く侵さるゝことあり故に群住雜居する生活は殊に注意し其原因は疥癬蟲の傳染するに因る

症状 多くは初め指間指側次ぎに肘膝關節部に發現し好んで臂部に發する者にして遂に全體に蔓延す而して其侵さるゝや一種言ふべからざる痒癢の感あり故に無智の小兒は之を搔刺して出血せしむること少しとせず

療法 豫防法は最も肝要にして疥癬の身體に觸接せしものには決して接待すべからず今や吾人は其療法として確實なる方法を講せん即ち百露拔爾撒謨及び蘇合香等分のものを發疹部に塗布し二十四時間を経て入浴を命すべし之れ再三施行するを可とす其他硫黃溫泉に入浴せしむ

るも効を奏すべし

頑癬(いんきん、たむし)

原因 本病は主に股間陰囊臀部生殖器等に發すること多く而して其原因は或る寄生菌の傳染に由て起る

症状 多くは赤褐色の結節にして或は水泡にて輪を呈し中央部は漸次剝層するに従て次第に周圍に撒蔓し癢痒實に甚だしく且つ頑固なりとす
療法 豫防法は該患者に接觸するを禁じ癢痒に向ては加里石鹼精若くは流動氈里設林石鹼を以て洗滌すべし

頭髮脫落

原因 本病の原因は主として頭皮炎症皮脂溢流或は重病に罹れる時及び梅毒等なり
症状 即ち頭髮の脫落消亡之なり

療法 原因療法を行ふを適當とす

癩(なまづ)

原因 即ちミクロスポロン、ラルフルと稱する植物性寄生生物に因る
症状 身體中殊に胸部に發生する扁平圓形黄色の斑にして其色淡褐より暗褐に變ず輕微の癢痒の感を呈し剝屑となる
療法 患部を加里石鹼にて能く洗滌し後二十倍の撒酸精を塗布す

酒齧(鼻赤鼻)

原因 本病は女子より男子に多く見る處にして年齢には少しく關係あり故に三十年以上の者に多く而して其主なる原因は酒精類の過用にして寒冷、婦人生殖器慢性胃腸加答兒等より來ることあり

症状 主に専ら鼻に於て、脈管擴張し潮蔓性の紅斑を發し重症に在ては毛細血管擴張

症となり皮脂腺炎性滲潤及び化膿を生ずるに至る且つ組織の肥厚を生來すべし其他患部の温感の増加、膿疱に疼痛を覺ゆるなり
療法 經過慢性なるを以て能く原因を探知し、之が療法を施す可し

白 癬(白雲)

原因 寄生菌の傳染なり

症状 主として頭髮部に生ずる毛囊周圍に硫黄色の小體を形成する者にして其形狀圓板に類して中央陷凹せり 加之毛髪は折れ易きのみならず又抜け易くして光澤なし持續久しきに亘れば禿頭となる

療法 本病は生命上格別のこと無き者なれども治癒する難く再發する者にして先づ肝油を患部に灌ぎ數回 濕潤し後粗毛櫛にて之を摩擦し以て軟化せる部分を除去し石鹼を用ひて洗滌し猶ほ治せざれば皮膚病専門醫の治療を受くべし

瘰 疽

原因 指趾 足趾 足趾 手掌等の小創より膿膿球菌の侵入すること明かにして多くは竹木の刺爪下、或は指中に穿入するに由て起る瘰癧なり

症状 指掌面或は趾蹠面の起腫緊張して疼痛劇しく爲めに最初惡寒發熱することあり而して間々膿鞘炎を發する者なれば注意せざるべからず

療法 初め冷卷法アルコール濕布繃帶等を行ひ炎症を去るに努め病勢進む傾きあれば速に醫師によりて切開手術を受くべし

瘡 瘍(ふう、ちやう)

原因 本病は顔面頸部項四肢殊に臀部に多く現はるゝ者にして其原因は主に不潔の皮膚毛囊孔より膿膿菌の深く侵入するより發するものとす

症状 皮膚赤焮腫起して疼痛あり其形狀圓錐形に突隆す其項部に膿栓頭を認むるに至る

療法 顔面癩瘍は危険なることあるも他は敢て恐るべき者にあらず先づ温巴布を用ひて破潰せしむるにつとめ而して再發すること度々なるときは飲食物の攝生を嚴にし住地を清潔ならしめ兼て空氣の換流を善くすべし又必要ある場合は下劑を投することあり加之顔面に現れたる者は神速に切開を施すを良とす

水 疱 疹

原因 本病は熱性病 例へば間歇熱肺炎或は腦脊髓膜炎神經節の疾患等の刺戟は此の原因となる

症状 鼻部、口唇、邊緣、陰莖の包皮、小陰唇等の粘膜又は軟弱の皮膚知覺過敏なる部に熱灼及び痒癢の感を前驅して發するものなり且つ帶狀疱疹は皮膚神經の分布區に隨て群生し神經痛を伴ひ大抵に偏側に生ずべし

療法 敢て治療を要せず自然の妙能に由て消散する者なれども水疱の存せる間は澱粉を撒布し痂皮結べる者には脂肪油を塗布し以て之を軟化せしめ繃帯を施すのみ

傳染性膿疱疹(飛火)

原因 小兒に多く寄生菌に因りて起る、

症状 顔面又は手に發し水疱疹状を呈す破潰すれば黄色の痂皮を結ぶ、
療法 原因を除去し脂肪或は油劑を貼し痂皮を軟化して後ち軟膏を貼す、

毛髮色素脱失症(白子)

俗に白髮赤髮と稱し、先天性或は後天性に來る即ち先天性には白子と稱するものあり後天性には諸疾患より又は藥物の服用によりて來り其他老人の白髮となるもこれ色素の脱失によるものなり

魚 鱗 癬

原因 遺傳に起因するもの多し、

症狀 表皮増殖して鱗屑状に變化し恰も魚鱗の如し四肢の脊面殊に膝蓋又は肘關節部に發す
 其部は疼痛又は癢痒等を缺く
 療法 専ら局處療法にして微温浴及び脂肪、油類、肝油、藥用石鹼の塗擦等を施す其他乾癬療法に同じ

疣贅

扁平或は半球形の突出せる小腫瘍にして其大さ豌豆大より大豆大に至る時に數個集合して巨大となることあり最も多く手指に發生し顔面に至るもの稀れなり疼痛其他著しき障害なきも美容上醜惡なるものなり
 療法としては腐蝕性外用藥又は時に内服藥を用ふることあり

鬚瘡

原因 單純性は皮脂分泌過多寄生性は「トリヒョヒートン、トンズランス」の寄生による

症候 口圍及下顎部に發する小瘡にして結節状をなす者と膿泡をなす者とあり各皆一條の鬚を通じ毛囊潰滅して其部禿裸となる
 療法 先づ脂肪の結痂に塗布して之を軟和除去するの後に石鹼或は石鹼精を以て洗ふべし且毎日剃鬚して其部の皮膚には軟膏を貼用すべし

鶏眼(魚目)

原因 局所の器械的刺戟に關する表皮細胞の形成過多なり
 療法 先づ局部を硼酸或はサルチル散を以て潤はしむる後大凡四密迷乃至半密迷の厚さに結晶撒酸を以て被ひ而して其上を無刺戟性の繃帶品即ち數層に疊みたる硼酸溶液の濕「リン」等を以てし更に「グッタベルカ」を用ひて其表面を密閉するなり

濕疹

原因 化學的、器械的、温熱的、刺戟的、寄生菌、不潔、血行障礙、腺病性、惡液、貧血、糖

尿管等にして頭皮顔面股間臀部乳房陰部等に多し
 症候 急性慢性の別あれ共皮膚の癢痒灼熱腫起に起り次で發生したる帽針頭大の赤疹水泡に變じたる末或は潰破し或は軟痂を結び後鱗屑を生じ終に治するものなり
 療法 濕疹を療するには注意して局所療法を行ひ又兼て全身の状態を診し營養の障害神經性症狀等あるときは又兼て之を治療せんことを要す

鱗 屑 癬

原因 遺傳なりと云ひ細菌なりと云ふも詳ならず
 症候 初め肘關節、膝關節の伸展側に發して次で頭部及薦骨部に發し漸次周圍に蔓延す細針頭大の丘疹にして其頂點に白色の光輝ある鱗屑を生ずる者なり而して其周圍に蔓延増大するに従ひ先きに點狀のもの鱗屑癬となり貨幣狀となり輪狀となり叢合す
 療法 皮膚科醫に就き外用薬を處すべし

多 汗 症

原因 交感神經の疾患に係る皮膚血管神經の變常なり
 症候 身體中殊に手足腋窩及臀部等に於て異臭の汗を多量に分泌す
 療法 澱粉を皮膚に撒布し可及的之を乾燥せしめ陰部及腋窩には先づ棉花を挿入して軋爛を防ぐべし

蕁 麻 疹

原因 原因 蕁麻疹は皮膚の脈管神經病にして其原因は外部の刺戟即ち昆蟲の螫刺咬嚼或は内部刺戟即ち婦人生殖器腸管刺戟等に來る腸刺戟は海魚果物等に由て來ること多し
 發疹の形狀其名の如く大小不定部位又一定ならず屢々融合して廣く赤色を呈し或は猩紅疹に類することあり發疹の時間は短少にして其間堪へ難き搔痒あり其搔爬刺戟は再び之を生ずる原因をなす經過及び豫後は原因に關す

療法 急性症は冷水浴稀酸類の点滴法洗滌法鉛水療法を良とす
癢痒微痛ある者は搔破することなく静置して阿爾個保兒を塗布すべし

匍行疹帶狀匍行疹(はたけ)

原因症候及輕過 初め赤色小蕾疹を生じ忽ち水泡をなすを固有とす殊に多發の部位は顔面及び陰部なり

帶狀匍行疹は皮膚神經の行路に沿うて生じ其區域一神經の分布區域内に限局するを常とす之れ其原因蓋し神經系統の疾患なればなり而して其發疹と同時に連繫水脈腺の疼痛性腫脹を見る經過大約三週豫後概して良なり

療法 本病の治法は粉質藥を撒布して務めて乾燥せしむるを主眼とす

癢 疹(かゆきふきで)

原因症候 二歳の小兒之に罹ること最も多し反覆せる麻疹疹搔爬刺戟屢々原因たり常に甚しき

癢痒あり發疹は帽針頭大白色 或は淡紅色小結節にして下脚前面臀部に多發し一二年を経過せば淋巴腺腫脹を來す

療法 哺乳兒或は稍生育せる小兒に於ては一日一回加里石鹼膏を塗擦し一二時間を経て温浴をなさしめ而る後患部を乾拭し華攝林或は肝油を塗布す大部皮膚剝脱し或は膿を醸生するとき肝油を塗布して纏包し石鹼膏塗擦療法をなす

毛 虱

原因 毛虱の寄生に基く

症狀 陰部被毛部に間歇性に劇しき癢痒を感ずる者にして後に至れば眉毛鬚腋窩等に蔓延す故に該部を検査すれば毛虱、又は其卵子を認む

療法 唯だ患部に外用藥を塗擦するのみで足れり即ち朝及び夕刻は最も能き時間なり而して翌日に至れば、石鹼浴を行ひ清潔にすべし

毛髮に附着せる卵子を除去するには酒精を以て洗滌する後撒拔爾撒末を撒布し又水銀軟膏を

疥癬

塗擦し石鹼と微温湯を以て洗滌す
近時多く石油を用ふ私宅療養に在ては百露拔爾撒謨可なり乃ち其適量を漸次頭部に塗布し頭刷
子を以て擦入す石油を用ふる方法亦同一なり之に由り毛髪に附着せる卵も共に撲殺するを得
而して薬液を擦入する儘「フランネル」布の類を以て頭部を被包し（殊に土耳其帽を良とす）
十二時乃至二十四時間を放置する後石鹼精約四十瓦を取り漸次に之を頭上に点滴し更に水に濕
せる刷子を以て摩擦し微温湯を注で洗滌す而して毛髪に固着せる卵子は繊細なる櫛を以て叮嚀
に梳り器械的に之を除去せざる可らず之を脱離し易からしむるは稀釋せる醋酸を良とす

瘰癧

原因症候 本病は脂腺及毛囊より發する炎症なり其少壯者に發する者は意とするに足らざるも
幼兒の營養不給に來る者は豫後頗る危険なり
療法 體力を補全するを專一とす

衣 虱

原因 寄生蟲による
症狀 不潔なる「シャツ」褌袴等に寄生し人體皮膚の上皮より血液を吸引し爲めに患者は劇
しき痒痒を感じ爪頭を以て搔把するが爲め其爪痕暗色を呈し永久消褪せず下等社會殊に乞食
に多く時に上流社會の旅行又は病中兵士の從軍行軍中に蔓延す
療法 身體衣服の不潔より發生するものなるが故に常に清潔を保ち衣服は熱湯中に投じて殺蟲
法を施し時々下衣を交換すべし

乾 癬

乾癬は一に鱗屑疹と稱し糠枇疹と併稱して「はたけ」と云ふ銀白色にして相重なり表皮鱗片狀
をなす其手掌面に發せる斑小にして鱗屑薄きものは俗に水蟲と名づく其他症狀及び療法に就き
ては鱗屑癬を参照せよ

陰毛虱

扁平にして淡褐色の寄生蟲なり多く陰毛中に栖む局部の不潔交接より起る時に漸次蔓延して腋毛眉毛胸毛に迄進むことあり主徴としては不快の癢痒にして爬搔甚しきが爲めに多く濕疹を發す療法としては局部の清潔を保ち水銀軟膏等の驅蟲劑を用ふべし

夏日斑

原因 遺傳によりて起る

症狀 顔面に著しく時に手背に發することあり夏日にあらはれ冬日には消散す

療法 昇汞水を用ふるも醫の監督を要す其他種々なる軟膏及び藥液あり

風疹

原因 流行性に發し麻疹に類似するも其原因を異にす

症狀 二三週間の潜伏期より惡寒戰慄を前驅して體温三十八度乃至其以上に昇り脈搏九十又は百至を算す口内炎、結膜炎、鼻加答兒を發し發疹期に移れば初め顔面及び頸部に紅疹を發し漸次全身に及ぶ概ね三四日にして褪色して全治するものなり

療法 發熱ある時は就褥を命じ清涼飲料を用ひ皮膚癢痒著しき時は酒精若くは油性塗擦劑を與ふ

胼 胝(鶏眼)

原因 局部の器械的刺戟に因する表皮細胞の増殖なり

症狀 多く手又は足に發し一局部の表皮堅固にして恰も魚眼又は鶏眼の如し故に其俗名あり
療法 硬固なる表皮を剝離し鶏眼を切除して後硬膏又は軟膏を貼すべし然れども外科醫の治療を受くれば根治的完全なる法なり

頭 虱

原因 頭髪部の不潔により虱蟲の寄生に因す

症状 虱蟲の運動匍匐と共に不快の瘙癢を感ず多く小兒又は老人に來るも一般貧者殊に乞食に多し

療法 頭髪部の清潔を謀り石鹼清水を以て清洗し後水銀軟膏或は5%ナフトール軟膏を塗擦すべし

圓形禿頭症(鬼舐頭)

原因 寄生菌或は營養神經の障害に因る

症状 圓形をなして毛髮短對脱落し漸次其周圍に蔓延し一定の度に至りて停る後毛髮を生じて漸次恢復して原態に復するものなれども其頑固なるものもありては益々増劇して全頭より全身に波及し眉毛、睫毛、鬚髯、腋毛、陰毛、毳毛等悉く消失するに至る然れども數年の後再生することあり

療法 頭部を清潔にし全身療法としては強壯法を採り局所療法としては諸種の軟膏及び塗布液を用ふ

を用ふ

腋 臭

腋臭とは學術名にして本邦古來より腋臭と稱せり臭汗症の一部類にして腋窩汗腺の分泌物の臭氣を發するものなり而して分泌物の過剰なる時は分解作用を發して一層惡臭を放つ尤も腋下腋は手足の汗腺より脂肪過多なるを以て分解作用亦容易なり而して分泌甚しき時は腋窩皮膚濕潤して濕疹を來す

療法 一般局部を清潔に保ち外用塗布藥時に内服劑によりて治療することを得

面 皰

原因 春情發動期に發する皮脂腺分泌物の停滯による即ち皮脂腺口に汚物の附着して腺口を閉塞するに因す

症状 小豆大或は豌豆大にして腫赤して稍や疼痛ある結節をなす

療法 身體殊に顔面の沐浴清洗に勉め外用薬によりて皮脂腺の閉塞を防ぐべし

第十一編 骨筋肉病及外傷

火 傷(やけど)

原因 火傷は熱流動體熱固體火焰熱瓦斯等の觸接に因し其熱の強弱により第一度第二度第三度に區別す

症候 第一度に於ては皮膚單に充血發赤し知覺過敏なるのみにして火熱此度にして既に去れば表皮落屑を以て治癒し敢て一の痕跡も貽さず之火熱の爲めに血管壁筋層痙攣するに由て單に血液灌漑するのみなり

第二度にては加熱後十分乃至十二分を経て皮膚に水泡を生じ且疼痛あり其内容液は無色透明なり此液は頗る微菌發育に適せる物なるを以て若外氣と交通せば忽ちにして炎症を起す

第三度は組織の壞疽を誘發す壞死部は或は蛋白質凝結の爲めに灰白色を呈し或は全く炭化するに因て黒色を呈す且同時に右兩種の中間諸色を呈するものあり時として壞疽深部に及び筋

肉骨質等も亦侵さるゝとあり而して壊死部は分界線を生じて脱離し次で瘡痕を結んで治癒す此瘡痕の捲縮するに當て往々皮膚筋腱等を牽引短縮して甚しき醜貌又は官能障害を起すこと少からず

第一度の火傷たりとも全身表面の三分の一以上を占むる時は死に陥る者なり

療法 大氣の刺戟を防ぐべし即ち火傷面には中性緩和なる而かも分解し難き液「グリセリン」

阿列布油等を塗布し綿花紋羽の如き柔軟なる物質を貼して縛縛す又冷罨法を施すとあり

第二度水泡を針尖にて穿刺して内容液を漏し胞壁は除去せずして附着すべし頗る發炎し易きが故に防腐繻帯を施さん要す但し其廣汎なる者に在ては石炭酸を用ふべからず之れ體中に吸収せられて中毒を起すの恐れあればなり宜しく撒里矢爾綿の如きを代用すべし或は撒里

矢爾酸軟膏を貼して縛縛すべし

第三度へブラ氏持續微温浴法は大氣直接せずして防腐兼鎮痛の効あり其温度は患者の好む所に任すべし然れども經久之を行ふは實際 上大に不便なりとす又「ワセリン」「グリセリン」

阿列布油等に撒里失爾酸を混して患部に塗布し綿花又は「リント」にて之を覆ひ軽く縛縛す

べし炭化せる壞疽痂は之を去らずして防腐、繻帯を施すべし深大にして廣からざる時は單に防腐繻帯を用ふ

蜂 窠 織 炎

原因 概ね損傷部より膿腫連鎖球菌の侵入に由る

症候 寒戦を以て始まり體温著しく上昇し諸般の熱症候を呈し患部の皮膚赤色腫起硬くして疼痛甚だし

療法 初期にありては安靜冷罨法を行ひ既にして波動を認め或は否らざるも全身症状熱疼痛を發すれば速に切開を施し膿汁を泄し制腐法を施すべし

脱 疽

種類 (甲) 乾性壞疽 (乙) 濕性壞疽の二種とす

原因 (一) 營養物供給の廢絶 (二) 組織細胞の生活絶止 (三) 營養神經の疾患誘因となるも

ものは外傷、壓迫、麥角中毒、血液變調、衰弱等なり

症候 (甲) 乾性壞疽、木乃伊變性は組織水分の蒸發と吸収とに由り乾燥し而して組織柔軟なるときは萎縮して褐色、或は黒色の木乃伊狀木炭の如くなり硬くなるときは敢て外形を變ずるとなし (乙) 濕性壞疽は壞死片大なる故に腐敗し易し是れ空氣中に散在する細菌に附着して安謐尼亞硫化水素、揮發脂肪酸等を生ずるに由るなり而して其發起するや局部腫脹して厥冷し官能癱絶し知覺缺乏す色澤は初め青紅色後に黒色となる皮膚粘膜には水泡を生じて漿液様若くは膿性の液を分泌し漸く周圍に蔓延し健部との間に強充血を呈し紅色となり所謂分界炎を發し壞死部は異物となり周圍を刺戟し死片漸々脱落し肉芽盛に増殖するものなり
療法 一般療法は各原因に對して治法を施すと雖も必竟するに潰瘍自然の治癒を補助するを以て主眼とす

瘡 (床ずれ)

原因 癱瘓病、熱病、心臟衰態により久しく平臥し連綿たる外壓に起る皮膚の壞疽なり

症候 患部の發炎潮紅に始り而して藍青色を帯び疼痛水泡組織崩壞惡臭等なり
療法 初期の潮紅には醋水酒精、或は微温湯の洗滌及び膏藥の貼用を施し既にして實質缺損を起したる者には清潔法、防護繃帶、豫防法には屢々臥位を變換す

潰 瘍 (できもの)

種類 (甲) 特發性潰瘍、症候的潰瘍の二種とす蓋し時發潰瘍は一箇獨立の疾病にして繼發潰瘍は特種の疾病ありて之が原因となり發するものなり

原因 (甲) 特發潰瘍は皮膚上層の慢性炎は主なる原因にして器械的温熱的の刺戟例へば惡靴を穿ち爲めに其刺戟に由り炎症を起し組織分子的に崩壞し潰瘍となる其他血行及營養障害は其近因たり (乙) 繼發潰瘍は特異の全身疾患、即ち結核、腺病、風濕、失荷兒、陪屈、梅毒、癩病、癌、肉腫等の化膿性潰瘍となる者
療法 脱疽の療法を見よ

膿瘍

原因 膿菌侵襲、結核、扁桃腺炎、甲状腺、乳腺炎、腎石、腎炎、膀胱炎、尿道炎、子宮周
 圍炎、梅毒、脊椎炎、衰弱、膿毒症、惡液質等より起る

症候 熱性膿瘍にありては波動性の軟隆起、潮紅灼熱疼痛を發し又體温の上昇する事あり、寒
 性膿瘍にありては灼熱疼痛を缺如し只波動を呈する軟隆腫を見るのみ但し以上は膿瘍の通有
 性にして各膿瘍其發生の部位に従ひ種々の障害をなす例は之皮下の膿瘍僅微の症候を呈する
 に過ぎざるも膿或は肺の膿瘍は危險の症を發するが如し其膿瘍發生の組織に従ひ蜂巢織、膿
 瘍筋肉膿瘍骨膜膿瘍等を區別す

療法 醫士は熱性膿瘍にありて膿瘍を開切し排膿後制腐液を以て洗滌し或は護膜管を送入し或
 は沃度仿謨「ガーゼ」を充填す又寒性膿瘍にありては穿刺法を行ふものなり

骨瘍(カリス)

原因 結核、梅毒等なり

症候 部位に従て異なり脊椎に發すれば龜脊を生じ指趾に於ては骨の肥大を來すが如し専ら

管狀骨の骨端及短骨に發す幼年の者に多し

療法 醫士は原因療法を施し外科手術を用ひて其部を除去し銳匙を以て搔爬し沃度仿謨「ガー
 ゼ」を用ひて充填す其他強壯療法を用ふべし

肋骨々々折

原因 直達、或は介達外力に由て發生する者とす其直達外力とは衝突打撲に由り折片へ内方
 に移り内臓を損傷し易し(介達外力)とは胸廓壓迫せられ其力強くして肋骨彈性の度に勝
 ちたる時に發するを以て肋骨は外方に向ふ故に内臓を損傷する危険少なし其他筋肉收縮の
 爲破折する事あり例へば劇しき咳嗽時噴嚏時分婉時等に發する之なり然して本症は老人消耗
 性疾患、後骨軟化症等に於ける骨質異常に由り骨の抵抗力を失ひたる時に起る而して肋骨
 中折傷を被り易きは第四より第八肋骨にして殊に第七肋骨に於て然り其最稀なるは第一第三

肋骨なり之れ被覆厚きが故れり

症候 肋骨折傷は横折傷或は斜折傷を多しとす其他單骨折復骨折縱骨折等ありて骨接部の疼

痛は深呼吸例へば咳嗽噴嚏及指頭の壓迫に由り殊に増劇す咄軋音は手掌を平かに疼痛部に當

て聽胸器を貼し深呼吸をなさしむるときは明瞭なるものなり

關節癆麻質斯

療法 速に外科専門醫の手當を受くべし

原因 本症は能く屢々遭遇する疾患にして寒冷の候に發すると多くして其病毒は特異なる一種

の傳染毒の侵入に因して感冒に誘起せる關節部の疾病なること 明なり

病症 老年少年に少なくして春期發動期より四十年間の者に多く認むる關節の疼痛腫起發熱

口渴あり而して其運動は著しく障碍せられ或は急性の定型として心臟内膜外膜の炎症又は胸

膜炎を發併することあり

療法 勉めて患者を安靜に保持し劇痛には氷巻法を行ひ且つ沃度丁幾イヒチオールを塗布し酸

骨 膜 炎

原因 外傷 腺病 梅毒 膿膜 細菌の傳染即ち之なり

症狀 急性の者は患部劇痛潮紅起腫或は化膿破壊を來たすのみならず最初に劇熱ある者あり

而して慢性に在ては骨膜の頹敗を招くと雖も疼痛少く主に腫起を認むるのみならず患部は淺

在骨に多きを常とす

療法 對症療法を施すは勿論にして先づ患部に濕布繃帶を施し患肢を適當の位置に保持し加之

一般の固定法を行ふは普通の治則にして慢性の者は按摩法は其効少しとせず

痛 風

原因 本病は比較的本邦人之に罹るもの少なし四十年以上の人に来るものにして遺傳性なる

あり或は美酒、飽食して蛋白に富める食物を取るもの其他誘因としては外傷度の者に發するものとす

症狀 夜間に殊に劇しき關節の疼痛あり而して惡寒發熱丹毒様の腫起、潮紅、心悸亢進、腸胃の障害専ら手指及び足趾の關節を犯し尿量は減少す而して關節痛は夜間發作晝間は休歇す斯の如く發作する五日乃至十日にして休止し數週乃至數年を経て再び發するものとす

療法 平常の食を整へ及び其量を減少し果物を食し且つ動植兩性の混合食を取り酒精類を禁すべし亞爾加里性鹽泉水茶泉水等の飲用を試み戸外の散步をなさしむべし内服劑は醫より乞ふべし

膝關節炎

膝關節炎は其原因及症狀療法等股關節炎に類す參照せよ

筋肉癱瘓質斯

原因症狀 本病は關節癱瘓質斯に於ける如く濕氣寒胃に由て誘發せらるる筋肉の疼痛にして急性及び慢性に區別す其病原一種の么微有機體ならん

療法 本病に用ふべき藥石は關節癱瘓質斯に大異なく主として局所療法を行ふ按摩法温浴蒸氣浴電氣療法鑛泉鹽泉諸多の溫泉療法等經久症に効あり急性期には患部を綿花綿布の類を以て温包し室内温度を平等温暖に保つべし

挫創

原因症狀 挫創とは鈍體衝突打撲車輪轉馬蹄蹴傷等に由て皮膚破壊し軟部挫傷するを云ふ
療法 止血及消毒處置をなす可及的創面を清潔に保つと必要なり即ち創面汚染の度に應ずる強度の制腐藥液を以て洗滌し後ちに單に沃度仿謨綿紗等を貼し制腐繃帶を行ふ然れども到底膿腫を免れざる者は左の如く處置す

(一) 持續冷水浴攝氏十度乃至三十度 (患者の不快を覺えざる度に之を定む) の滅菌水中に患部を浸し空氣の直接に創面に觸るゝを避けて以て細菌の發育を防遏するなり

(二) 冷巻法 (毎五分時交換) 或は氷嚢巻法

寒冷法は氷嚢を用ふるを常とす嚢中氷片に食鹽を加ふれば強烈の寒冷作用を致すべし、り列氏零下十六度の寒を生ずるを得其法

硝砂 一分 硝石 三分

水

右混和六分の醋を加ふ (シユムツケル氏)

硝砂 五分 硝石 五分

水 十六分

右混和更に八分の舍利鹽を加ふ (ウエーベル氏液)

硝砂 三分 硝石 一分

水 十分

右混和格魯兒加倍膜六分を加ふ (ハーゲル氏液)

(三) 灌水

其他患部を安靜にし患肢を高く保つべし

急性骨髓炎及骨膜炎

原因 本病は傳染性及外傷性の別あり

急性傳染性骨髓炎及び骨膜炎は幼年者に多く主として大腿骨に見る其骨髓炎は時として流行性に來ることあり或は急性傳染病經過中に續發するあり畢竟急性化膿を誘發すべき細菌の作用に由て發する者とす

症候 悪寒高熱時として譫妄等室扶斯様全身症を來すことあり患部劇痛腫起官能障礙等を來し

重症は一二日にして死す

療法 輕症は患部を固定安保し氷巻法若くは濕温包切開等を行ふ

慢性骨髓炎及骨膜炎

原因 本病は結核梅毒放線狀菌性に來るを最も多しとす又た急性傳染病急性骨病より來る

症候 一樣ならず即ち胼胝狀に肥厚するもの所謂纖維性骨膜炎あり骨瘤或は骨肥大をなすもの
 即ち化骨性骨膜炎あり化膿性あり結核性炎症の症狀は前條記する處あり
 療法 梅毒に因するは驅療法をなし其他化膿性肥厚性を診別して處置するを要す
 劇痛炎症狀は減張切開冷罨法沃度丁幾を塗布し骨瘤胼胝狀には壓迫を試み皮膚潰瘍軟部疾患
 ある者は之に對して醫によりて處置す

急性關節炎

原因症候 急性關節炎の原因は主として外傷 骨 髓炎骨膜炎より波及急性 傳染病即ち膿毒症
 產褥熱室扶斯急性發疹病等に来り又癩麻質斯尿酸性痛風淋 梅毒感冒等に發す
 療法 滲出物の性質に由て本病を漿液性化膿性に區別す漿液性關節炎は通常腫脹波動を感じ
 關節運動著しく妨げなきも爲に疼痛あり發熱は時として缺如する者多し豫後多く佳良經過
 は其原因に従ふ
 化膿性炎は頓に戰慄發熱し劇甚の疼痛腫脹あり運動障礙せられ皮膚潮紅灼熱し漸く膿溜す

るに及びて波動あり廣く浮腫を波及す
 漿液性炎は患肢を安靜扛擧の位置に固定し氷罨法を行ひ疼痛消退せば彈力性壓迫を以て滲出
 物吸収を催進すべし

慢性關節炎

原因 乾性及び濕性に區別す其原因は外傷 梅毒淋病癩麻質斯結核等を多しとす
 滲出性慢性關節炎所謂關節水腫は多量の滲出物あり波動を觸れ運動に由て軋聲摩擦音を
 認む
 癩麻質斯性炎は關節膜及周圍に結組織を増生し萎縮硬變肥厚等を成し易し其他慢性化膿性
 あり結核性炎は別に記するが如し
 畸形性關節炎は其名稱の如く關節の機能障礙を來たすなり(軟骨の缺損關節部の摩滅等)之
 れ結局強直を致すべし
 最も多き關節病は股關節の炎症(股關節炎)及び膝關節の炎症とす股關節炎は多くは結核に

原因す脚の病的位位置は主に延長して稍々外轉位置に彎曲し病脚を把て他動的に運動せしむれば之れと共に骨盤の共同運動をなすを固有とす

療法 初期に於ては安置し強力の消炎法をなし強直の傾きあるは適當の位置に安置す例へば義扶斯繃帯を以て展伸固定するが如し

打 撲(うちみ)

打撲とは鈍器の相衝突し又は振捻挫折、壓迫、打撃等によりて發する皮膚の損傷なき挫傷なり其強弱種類によりて疼痛及び腫起若くは皮下溢血等あり時に化膿することあり

療法 患部を安静とし疼痛あれば冷罨法、冷濕布を施し局部の冷却をはかるべし其他イヒチオール、沃度丁幾等の塗布亦効あり

創 傷(きず)

原因 銳利の器物或は速力ある鈍器によりて身體一部の連續を斷離し若しくは鈍體の衝突、車

輪の轆轉、馬蹄、蹴傷、打撲等によりて皮膚破壊するに因る

症狀 單純なるものは切創、打創、刺創、裂創等にして挫傷も亦創傷の一部と見做すべし而して主徴としては多少の疼痛と出血を呈し其消毒防腐の善悪によりて一時癒合するものと化膿に陥るものとあり

創傷の重症のものにありては著しき全身障害即ち發熱虛脱、譫語等を發し創傷傳染病たる破傷風、敗血症等を誘發することあり

療法 最も必要なるは局部の清潔法に注意し創傷の化膿に陥らざる事を務め防腐繃帯を施し勿論外科醫の處置を乞ふべし其他の手當は救急療法を参照せよ

股 關 節 炎

原因 急性症は關節の創傷又は急性傳染病より起り慢性にありては結核等より來る専ら五六歳より十歳位の小兒に發す

症狀 結核性脫關節炎は其經過を三期に區別す第一期は跛步膝股痛等第二期は患部の増大して

浮腫柔軟となり疼痛劇甚となる第三期に至れば瘰癧を生じ骨端脱臼して短縮し畸形を呈す全身症状としては貧血衰弱等なり豫後は概ね良ならず然れども早期適法により治すること亦稀れならず

療法 消炎法及び滋養攝生を専らとし固定繃帯を用ひて關節を不動となすべし早期醫治を適當となす

腰痛

腰痛は諸種の一症状にして即ち男女生殖器病、腰筋レウマチス、坐骨神經痛、脊髓疾患、急性傳染病等より起る其療法も原因によりて異なる

第十二編 全身病

凍 傷(霜やけ)

原因 本症は冬季強度の寒冷より來る火傷と同じく輕重により第一度第二度第三度に區別す
症候 最初皮膚蒼白色となり次で紫紅色に變じ一種の慢性炎を發す俗に霜腫是なり即ち指趾、
耳介、鼻尖等血行の旺盛ならざる部分の皮膚に紫紅色の腫脹を生じ瘙痒甚しく又灼熱ありて潰瘍に陥り易し殊に本症は小兒貧血家職業上溫度の劇變を受くる者に來る第二度局部は深紅色乃至帶青色となり水泡を發し深部侵蝕性の壞疽に陥り易く若し數日間局部感覺脱失し水泡の他異常なきときは危険なりとす

第三度に至りては局部知覺脱失して血行歇み青暗色を呈して壞疽(脱疽)に陥り續て局部蜂窠織炎膿毒症 敗血症等を發して斃るゝことあり
全身凍傷は寒國に屢々見る處にして昏瞶嗜眠脈搏呼吸共に緩徐となり瞳孔は散大し反應遲鈍

となり遂に心臓痙攣に陥りて凍死す
 療法 先づ冷水雪塊或は氷片を以て患部を摩擦するか或は氷片覆法を行ふ四肢の凍傷に罹れるときは之を高擧すべし若し貧血者にしては冬期凍傷を患ふる者強壯療法を行ふ豫防としては手足を包すべし

急性淋巴管炎

原因 本病は發炎的刺戟物の淋巴液に混じて淋巴管を流通する際管壁に發炎するものなり故に左の原因に因て發するを得即ち疵創に諸種の炎症偶發性創傷傳染病は軟性下疳又は梅毒性炎症等起せる時或は不潔なる器械により創傷を作られたる時憤怒せる人類及び他の動物殊に犬鼠猫蛇等に由て咬傷を受けたる時等之なり
 症候 創傷部より求心性の方向に射出せる紅色線を現出する之れ病める淋巴管周囲毛細血管の炎症充血を起せるものなり時として此紅線最近の淋巴腺に達することあり又此腺に沿うて索状の硬結を觸る而して此紅線及索状硬結の生じたる部に疼痛を起す本症の輕度なるものは單

に淋巴管經過に沿うて疼痛を起すのみにして紅線及索状硬結を認めず又深在せる淋巴管の發炎する時は稍高度に至るも亦此の如きとあり又最近の淋巴腺は毎に炎機に連累す然る時は腺は腫起疼痛を起し急性淋巴腺炎の徴候を呈す又稀に全身熱症を發し之に隨伴する諸臓器の所謂熱性症狀を發することあるも殆んど過敏家及衰弱家に限るが如し
 療法 創傷部を法に従て制腐し防腐繃帯を施すべし其他水銀軟膏を塗擦冷瘃法を行ふべし

日射病(暑さあたり)

原因 本病は多く夏期に見る處にして酷烈なる太陽炎熱の侵襲を受け飲料の不足なるときは之を發す
 症狀 頭痛眩暈卒倒及び體温昇騰、脈搏細小等なり
 療法 先づ患者を涼陰或は爽涼なる室内へ移し可及的狭屈なる着物を脱し少許の清水を與へ成るべく冷却せる麥酒を飲ましめ一時間毎に頭部に冷水を灌注し且つ氷嚢を施し芥子泥等を用ひ其他葡萄酒、清冷藥等を投すべし

甲狀腺腫

原因 未だ闡明ならず或は風土病なりと云ひ或は飲水中に沃度化合物及び他の鹽類の缺乏に基づくと云ひ其他放聲吟歌を業とする者或は月經異常等は其原因たるが如し而して本病は老人に多し

症候 初め著しき病症なしと雖ども増大するに及んで嚥下及び呼吸を妨げ氣管及胃管を壓迫するを以て時として窒息を起すとあり或は迷走神経交感神経を壓迫して心臓機能を妨げ咽喉諸筋の痙攣に由て聲音嘶啞することあり

療法 内外用共に沃度劑最も効あり

乳 癌

種類 (一) 葡萄狀癌、肉眼的半は硬固なる灰白色、或は帶赤灰白色の結節より成る蓋し葡萄狀癌は乳癌中最軟柔なるものにして此腫瘍は軟化し破壊し潰瘍を生ずるの性頗る旺にして直ちに

に腋下腺に轉移腫を發するを常とす (二) 單性癌 (管狀癌) 癌腫性滲潤となりて發生し多くは速に多發性癌腫結節の狀をなし或は蔓延性滲潤となり皮膚面に瀰蔓するに至る (三) 硬性癌 (癥痕性癌) 比較的細胞に乏しくして其成生緩漫なり其徵候は癥痕性收縮を起し兼て癌性細胞消滅するに在り (四) 膠樣癌 細胞膠樣變症を起し此の故に癌細胞は膠質を以て充たさる症候 三十歳—六十歳の間に生じ初め乳房の外上方或は外下方に小結節一個或は數個を生じ壓迫するに硬く皮下即ち胸筋上に移動して疼痛なしと雖も漸次發育するに従て皮膚と癒着し乳頭は退縮して臍窩の如く陷凹す軟性癌は發育迅速にして不正形をなし經過中劇痛あり而して此時期には腋窩腺著しく腫張して神経を壓迫して全胸に神経痛を起し靜脈を壓して其歸流を妨げ以て浮腫を發す而して腫瘍破潰するときは漸々惡液質となり全身蒼白色を呈して羸瘦す乳癌性通常硬固結節狀の腫瘍にして四十歳以上の婦人に頻發し其發多くは緩漫にして乳房内に於て移動せず終に皮膚に癒着するに至る殊に乳頭の陷没と遲鈍性硬固して腫大したる腋窩腺腫大とは乳癌に特有の徵候なりとす成長緩漫にして約三十歳前に生じたる葉狀磊塊にして硬固なる結節は纖維腫或は纖維腺腫なりとす成長極めて迅速にして少女或は

妙齡の婦人に發する軟性腫瘍は通常悪性腫瘍様ならず腫瘍の巨大なる纖維膿腫肉腫腫或は腺囊腫にして主に少婦人に發生す

療法 乳癌の療法は可及的早く剔出するを良とす

舌 癌

胃癌乳癌子宮癌等の如き原因及び年齢症狀を呈し發生を舌に來すものなり

舞 踏 病

原因 五六年乃至十五六歳の神經性血族の處女に多く發する者にして腸蟲貧血心内膜炎關節炎妊娠及び精神劇動等之なり

症狀 運動異常即ち不整にして秩序なき隨意筋に起る不隨意の筋縮にして奇形種々の痙攣を爲す加之全身の違和食思缺乏等を呈す

療法 務めて原因を除去し故に貧血症なれば鐵劑を與へ俾麻質斯に併發したる者は撒曹を用ふ

冷水灌漑法亦た効あり若し小兒の虛弱なる者は唯だ頭及び背部にのみ灌ぎ食物は可成的滋養品を給し空氣の流通を能くし身體精神の勞働を禁すべし

癩 癩

原因 本病は遺傳に關するは勿論腦脊髓の疾患、心身過勞、飲酒過度、鉛毒、腺病、梅毒、貧血、多淫、手淫、恐怖、腸蟲等より來る

症狀 是を患ふる僻ある者は發作前に起るや否やを知ると言ふ蓋し本病は突如として場所の如何に關せず忽ち卒然に人事不省となり昏倒す次で全身の強直性痙攣を發し口唇閉緊し瞳孔散大して光線に感應せず口腔より泡沫を噴出し大抵一分乃至十分時にして寛解するなり

療法 發作中稀れに水木石等に打撲して死することあり故に注意を加へざる可らず其他主として誘因事項を避け心身の過勞を慎み發作に際しては身體の損傷を防ぎ衣物を解除し舌を切創せざる爲めに齒列間に布を巻きたる物體を挿入すべし加之梅毒、鉛中毒に因する者と認むるときは其療法を怠るべからず

肥胖病

原因 脂肪分過多、飽食安逸、坐食、病後體質の變性等の爲めに起る
 症狀 肥満の爲め歩行困難、腹垂、發汗心動弱、心臟肥大、呼吸困難、四肢及び面部の浮腫等なり

療法 生活法を一變せしむべし即ち過食を禁じ八時間以内の睡眠を命じパン類馬鈴薯甘藷菓子酒類特に麥酒を禁じ澱粉砂糖を節し脂肪食を廢すべし其他主治醫の命に従ひ食餌を嚴守し適宜の運動をなすべし

皮下挫傷

救急療法挫傷を参照せよ

腺病

脚氣

原因 十三年以下の男女に見る全身病にして先天性或は後天性の別あれども其病毒は同一にして結核菌なり營養不良の空氣等誘因となる
 症候 體質薄弱淋巴腺腫頭部の濕疹頭皮膿疱皮膚の苔癬、痒疹、耳漏結膜炎、眼瞼炎、角膜炎、鼻加答兒、羞明、齲齒、脊椎、骨瘍の諸症を併發すべし
 療法 専ら飲食の品種及食餌に注意し而して食物には乳汁鶏卵肉羹汁肉類及び消化し易き野菜を用ひ居室の通氣を善くし家外の運動を營ましむべし一般に田舎の住居海水浴等を用ひて最良なりとす

症候及經過 (一)乾性脚氣初期に於ては先づ下脚の疲倦膝關節の緩縦を覺え且つ下脚殊に其前外面及足背に知覺異常を起して陰然たる蟻行痒及萎弱を覺え腓腸筋を撮握すれば疼痛あり時としては下脚に輕度の浮腫を發することあり而して歩行は漸く困難となりて強て歩行すれば趾先地を離れずして蹣跚たり此時膝蓋腱反射機は平常なるか或は亢進することあり但し本

病は足趾に異常を起すは甚だ稀なり更に病勢増進するときは口圍下腹前膊等に知覺異常を現はし拇指球筋は瘦削し且把握力を減じ足脚瘦削して運動の麻痺愈々加はり歩行すること能はず膝蓋腱反射機は消失し平流電氣を通ずるときは變性の反應を徴すれども感傳電流には殆んど應せず又心窩に痞塞し心悸亢進し消化機の不良となり多くは便秘す敢て熱候なきも尿量減少して比重を増す脈搏は疾速となり心尖搏動は強く往々肺動脈第二音に高調を現はす而して終には上下兩肢の全運動麻痺を致し稀には呼吸筋腹筋に變常を呈することあれども通例膀胱直腸及意識には異常を呈するとなし重症に在ては顔面迷走神經侵害せられ殊に咽喉神經麻痺して聲音嘶啞す而して本病は慢性或は悪急性の経過をなすものにして輕症に在ては二三週日にして全治すべしと雖も重症に在ては數月を要するもの多し其経過中往々手掌に異狀の赤色を現はすことあり又回復期に於ては腱反射器の強盛するを見るときあり劇症に於ては下肢の筋肉瘦削して麻痺すること甚しく爲に歩行著しく困難となりて其狀恰も脊髄癆者の歩行に髣髴たり然れども本病者に在ては眞に行動調節機の消退に因るにあらずして單に筋肉の麻痺に因るが故に歩行するには兩脚を開張し専ら股關節を屈して足を高舉し下脚は常に

鉛直に下垂し趾尖は地に接して離れざること恰も内臓足の狀を呈するを以て辨別すべし
 (二) 濕性脚氣本病の徵候は略々前者に異ならず唯々水腫の症狀を發し且つ尿量大に減少するを以て差ありとす即ち皮下蜂窠織内身體の諸腔内に汎く水腫を發し外貌は蒼白色に膨滿して恰も腎臟炎患者の如し而して其水腫を發するや初は下肢上肢面部より漸次他部に及ぶ但し胸水 腹水は通例輕微なりとす時日を経て水腫の症狀既に消散するときは乾性脚氣の症候を貽し羸瘦骨立して諸症及び輕過全く之に準す
 (三) 衝心性 本症は専ら強健壯質の者に多く最初は輕微の知覺異常運動障礙を呈し次で發熱する者あり或は頓に惡寒若くは戰慄を以て體溫昇進して恰も肺炎初期の如く咳嗽を發し次で乍ち知覺運動の異常を現はす者あり或は全く無熱にして急劇に知覺運動兩機の變狀を以て發病する者なり或は最初は乾性症若くは濕性症にして次で本症に轉するものあり而して面色帶黃蒼白にして脈搏は甚だ頻數強實となり心悸亢進して心窩に搏動を呈はし遂には心臟擴張症を起して呼吸促進胸内苦悶し聲音は嘶啞し數々嘔吐を發し「チセノーゼ」の狀益々増加し心神不安轉反側四肢厥冷等窒息の症狀を現はすに至る又心窩部を按試すれば疼痛を發す往々全

身浮腫して膨張し尿量減少して褐色を呈はし時としては咳嗽咯痰する者あり以上の病症は二三日を経る時は益々劇甚となり呼吸非常に困難となり脈搏細數にして糸の如く倫次を失ひ或は尿閉することありて遂に假死に陥り斃るゝことあり

療法 脚氣の豫防法としては米食を廢して更に麥食或は麵包を主食とするを良とするの説を主張する者あり但し營養不給密居群集住地の卑濕等は本病を發し易きを以て勉めて之等の諸件を避け前年本病を患ひし者は初夏の候に至れば早く山水明涼の山家に轉住するを最良とす既に病の發したるときは赤小豆麥飯等の食物療法を行ふも奏効甚だ著しからず故に重症に至らざる前速に函根日光等の如き清涼の山地に居を移り靜養すべし全治を得ること頗る速なり然れども既に重症に陥るに及びては車駕頗る危険なるを以て漫に轉地を企て難し宜しく爰に注意すべし病初めには専ら運動を避け飲食攝養に注意し殊に飲酒房事を禁じ稍々重病に在ては務めて消光し易き食餌を選し惡心嘔吐等を引き起さざるを要す就中牛乳生卵は食餌中最良のものなり極めて初期の者には水楊酸曹達輕症にして下肢倦怠腫脹緊張して知覺異常あるも心悸亢進せざる者には重酒石酸加里水楊酸曹達「ヤボランジ」等と與へて著効あり膝關節

癩 病

緩縦腓 腸 攀痛步行困難等ありて知覺異常の漸く下腹部上肢口圍に蔓延し且心悸亢進して浮腫あるものには鹽類下劑又は含利鹽の如きを投じ濕性症なるも經過緩漫にして心悸亢進せざる者には發汗劑利尿劑下劑等を用ふることなく單に健胃強壯劑に滋養の食餌を與ふるを以て却て良なりとす顔色蒼白にして心悸亢進し胸内苦悶呼吸促進等を發する者は心臟部に水囊を貼し胸背に芥子泥或は乾角を貼すべし内服には赤酒等の興奮劑を與へ既に嘔吐を發したるものには飲食を節し氷片を含ませしめ病増進すれば醫治を乞ひ回復期には消化し易き滋養の食餌及酒精類を與へ毎日一回溫浴若くは食鹽浴を命じて按摩法を行ひ適宜に散步逍遙せしむべし

原因 癩病は一千八百八十年「ハンゼン」氏が發見せる癩病桿菌の傳染に因て發する病にして此菌は本病患者の病竈及び腺質組織中に存す其形狀大小は結核菌に類似せる細小の桿狀菌にして常に一種の集合をなし又細胞中に集積す其長徑は赤血球の三分一乃至二分一に當る本病の毒菌人身中に侵入するの狀は未だ判然たらざれども恐くは皮膚の損傷部及營養器等よりす